

別紙 1

「水質基準に関する省令の制定及び水道法施行規則の一部改正等並びに水道水質管理における留意事項について」（平成15年10月10日付健水発第1010001号）新旧対照表

(下線の部分は改正部分)

改正後（新）		改正前（旧）	
(前略)		(前略)	
記		記	
第1～第4 (略)		第1～第4 (略)	
別添1～別添3 (略)		別添1～別添3 (略)	
別添4		別添4	
水質管理目標設定項目の検査方法		水質管理目標設定項目の検査方法	
(平成15年10月10日付健水発第1010001号)		(平成15年10月10日付健水発第1010001号)	
(最終改正 平成 <u>25</u> 年 <u>3</u> 月28日)		(最終改正 平成 <u>24</u> 年 <u>2</u> 月28日)	
厚生労働省健康局水道課		厚生労働省健康局水道課	
－ 目 次 －		－ 目 次 －	
目標1	アンチモン 1	目標1	アンチモン 1
目標2	ウラン 3	目標2	ウラン 3
目標3	ニッケル 4	目標3	ニッケル 4
目標4	亜硝酸態窒素 7	目標4	亜硝酸態窒素 7
目標5	1, 2－ジクロロエタン 7	目標5	1, 2－ジクロロエタン 7
目標6	削除	目標6	削除
目標7	削除	目標7	削除
目標8	トルエン 7	目標8	トルエン 7
目標9	フタル酸ジ（2－エチルヘキシル） 7	目標9	フタル酸ジ（2－エチルヘキシル） 7
目標10	亜塩素酸 9	目標10	亜塩素酸 9
目標11	削除	目標11	削除

目標12	二酸化塩素	9	目標12	二酸化塩素	9
目標13	ジクロロアセトニトリル	13	目標13	ジクロロアセトニトリル	13
目標14	抱水クロラール	13	目標14	抱水クロラール	13
目標15	農薬類	13	目標15	農薬類	13
目標16	残留塩素	21	目標16	残留塩素	17
目標17	カルシウム、マグネシウム等（硬度）	22	目標17	カルシウム、マグネシウム等（硬度）	18
目標18	マンガン	22	目標18	マンガン	18
目標19	遊離炭酸	23	目標19	遊離炭酸	19
目標20	1, 1, 1-トリクロロエタン	25	目標20	1, 1, 1-トリクロロエタン	21
目標21	メチル-tert-ブチルエーテル	25	目標21	メチル-tert-ブチルエーテル	21
目標22	有機物等（過マンガン酸カリウム消費量）	25	目標22	有機物等（過マンガン酸カリウム消費量）	21
目標23	臭気強度（TON）	26	目標23	臭気強度（TON）	22
目標24	蒸発残留物	27	目標24	蒸発残留物	23
目標25	濁度	27	目標25	濁度	23
目標26	pH値	28	目標26	pH値	24
目標27	腐食性（ランゲリア指数）	28	目標27	腐食性（ランゲリア指数）	24
目標28	従属栄養細菌	30	目標28	従属栄養細菌	26
目標29	1, 1-ジクロロエチレン	31	目標29	1, 1-ジクロロエチレン	27
目標30	アルミニウム及びその化合物	31	目標30	アルミニウム及びその化合物	27
別添方法1	パージ・トラップーガスクロマトグラフー質量分析計による一斉分析法	33	別添方法1	パージ・トラップーガスクロマトグラフー質量分析計による一斉分析法	29
別添方法2	ヘッドスペースーガスクロマトグラフー質量分析計による一斉分析法	35	別添方法2	ヘッドスペースーガスクロマトグラフー質量分析計による一斉分析法	31
別添方法3	溶媒抽出ーガスクロマトグラフー質量分析計による一斉分析法	37	別添方法3	溶媒抽出ーガスクロマトグラフー質量分析計による一斉分析法	33
別添方法4	誘導結合プラズマー質量分析装置による一斉分析法	40	別添方法4	誘導結合プラズマー質量分析装置による一斉分析法	36
別添方法5	固相抽出ーガスクロマトグラフー質量分析計による一斉分析法	42	別添方法5	固相抽出ーガスクロマトグラフー質量分析計による一斉分析法	38
別添方法5の2	固相抽出ーガスクロマトグラフー質量分析計による一斉分析法	50			

別添方法6	固相抽出ー誘導体化ーガスクロマトグラフー質量分析計による一斉分析法	55
別添方法7	パージ・トラップーガスクロマトグラフー質量分析法	58
別添方法8	ヘッドスペースーガスクロマトグラフー質量分析法	60
別添方法9	固相抽出ー高速液体クロマトグラフによる一斉分析法	62
別添方法10	固相抽出ー高速液体クロマトグラフ法	64
別添方法11	固相抽出ー高速液体クロマトグラフ法	66
別添方法12	誘導体化ー高速液体クロマトグラフ法	68
別添方法13	誘導体化ー高速液体クロマトグラフ法	70
別添方法14	高速液体クロマトグラフーポストカラムによる一斉分析法	73
別添方法15	高速液体クロマトグラフーポストカラム法	75
別添方法16	固相抽出ー高速液体クロマトグラフーポストカラム法	77
別添方法17	溶媒抽出ー高速液体クロマトグラフーポストカラム法	80
別添方法18	固相抽出ー液体クロマトグラフー質量分析計による一斉分析法	83
別添方法19	固相抽出ー液体クロマトグラフー質量分析法	88
別添方法20	液体クロマトグラフー質量分析計による一斉分析法	90
別紙1	水質管理目標設定項目の測定精度	97
別紙2	農薬類（水質管理目標設定項目15）の測定精度	99
別紙3	水質管理設定項目の検査の信頼性確保	106

※ 本紙中、「検査方法告示」は平成15年厚生労働省告示第261号（最終改正平成24年厚生労働省告示第66号）「水質基準に関する省令の規定に基づき厚生労働大臣が定める方法」をいい、「残

別添方法6	固相抽出ー誘導体化ーガスクロマトグラフー質量分析計による一斉分析法	45
別添方法7	パージ・トラップーガスクロマトグラフー質量分析法	48
別添方法8	ヘッドスペースーガスクロマトグラフー質量分析法	50
別添方法9	固相抽出ー高速液体クロマトグラフによる一斉分析法	52
別添方法10	固相抽出ー高速液体クロマトグラフ法	54
別添方法11	固相抽出ー高速液体クロマトグラフ法	56
別添方法12	誘導体化ー高速液体クロマトグラフ法	58
別添方法13	誘導体化ー高速液体クロマトグラフ法	60
別添方法14	高速液体クロマトグラフーポストカラムによる一斉分析法	63
別添方法15	高速液体クロマトグラフーポストカラム法	65
別添方法16	固相抽出ー高速液体クロマトグラフーポストカラム法	67
別添方法17	溶媒抽出ー高速液体クロマトグラフーポストカラム法	70
別添方法18	固相抽出ー液体クロマトグラフー質量分析計による一斉分析法	73
別添方法19	固相抽出ー液体クロマトグラフー質量分析法	78
別添方法20	液体クロマトグラフー質量分析計による一斉分析法	80
別紙1	水質管理目標設定項目の測定精度	83
別紙2	農薬類（水質管理目標設定項目15）の測定精度	85
別紙3	水質管理設定項目の検査の信頼性確保	89

※ 本紙中、「検査方法告示」は平成15年厚生労働省告示第261号（最終改正平成24年厚生労働省告示第66号）「水質基準に関する省令の規定に基づき厚生労働大臣が定める方法」をいい、「残

留塩素検査方法告示」は平成15年厚生労働省告示第318号（最終改正平成17年厚生労働省告示第75号）「水道法施行規則第17条第2項の規定に基づき厚生労働大臣が定める遊離残留塩素及び結合残留塩素の検査方法」をいう。

目標 1～目標14 （略）

目標15 農薬類

表1に掲げる農薬ごとに、それぞれ同表に定める方法による。ただし、アシベンゾラルSメチル、アミトラズ、エトキシスルフロ
ロン、オキサミル、シノスルフロン、シラフルオフェン、トリフ
ルミゾール、ピラゾスルフロンエチル、ピラゾリネート（ピラゾ
レート）、ベンゾビシクロン、ベンダイオカルブ及びペントキサ
ゾンの検査方法については、真度、精度又は目標値の100分の
1の定量下限を確保できない可能性が高いこと、また、1，3－
ジクロロプロペン（D－D）、2，2－DPA（ダラボン）、E
PN、MCPA、アセフェート、アニロホス、イソフェンホス、
イミノクタジン、クロルニトロフェン（CNP）、クロルピリホ
ス、ジクワット、ジフルベンズロン、ピペロホス、ピリダフェン
チオン、プロパホス、ホキシム及びポリカーバメートの検査方法
については、目標値の100分の1の定量下限を確保できない可
能性が高いことから、参考として示したものである。

表1 農薬類検査方法一覧

農薬名	検査方法	別添方法
1，3－ジクロ ロプロペン（D －D）注1）	PT－GC－M S法 HS－GC－M S法	別添方法7：参 考 別添方法8：参 考
<u>2，2－DPA</u> <u>（ダラボン）</u>	LC－MS法	別添方法20：参 考

留塩素検査方法告示」は平成15年厚生労働省告示第318号（最終改正平成17年厚生労働省告示第75号）「水道法施行規則第17条第2項の規定に基づき厚生労働大臣が定める遊離残留塩素及び結合残留塩素の検査方法」をいう。

目標 1～目標14 （略）

目標15 農薬類

表1に掲げる農薬ごとに、それぞれ同表に定める方法による。ただし、クロルニトロフェン（CNP）、CNP－アミノ体、ダ
ラボン、ジクワット、イミノクタジン酢酸塩及びポリカーバメートの検査方法については、別紙2「農薬類（水質管理目標設定項目
15）の測定精度」に示すとおり、定量下限値が目標値の100分の1を確保できないため、参考として示したものである。

表1 農薬類検査方法一覧

番号	農薬名	検査方法	別添方法
<u>4</u>	1，3－ジクロ ロプロペン（D －D）注1）	PT－GC－M S法 HS－GC－M S法	別添方法7 別添方法8
<u>64</u>	ダラボン	LC－MS法 <u>（ネガティブモ</u> <u>ード）</u>	別添方法20

2, 4-D (2, 4-P A)	固相抽出—誘導 体化—GC—M S法 固相抽出—LC —MS法	別添方法 6 別添方法 18
EPN 注2)	固相抽出—GC —MS法	別添方法 5 : 参 考
MCPA	LC—MS法	別添方法 20 : 参 考
アシベンゾラル Sメチル : 失効 農薬	LC—MS法	別添方法 20 : 参 考
アシュラム	固相抽出—HP LC法 固相抽出—LC —MS法	別添方法 9 別添方法 18
アセタミプリド	固相抽出—GC —MS法 LC—MS法	別添方法 5 の 2 別添方法 20
アセフェート	LC—MS法	別添方法 20 : 参 考
アゾキシストロ ビン	固相抽出—LC —MS法	別添方法 18
アトラジン	固相抽出—GC —MS法	別添方法 5

19	2, 4-ジクロ ロフェノキシ酢 酸 (2, 4- D)	固相抽出—誘導 体化—GC—M S法 固相抽出—LC —MS法 (ネガ ティブモード)	別添方法 6 別添方法 18
16	EPN 注2)	固相抽出—GC —MS法	別添方法 5
36	アシュラム	固相抽出—HP LC法 固相抽出—LC —MS法 (ポジ ティブモード・ ネガティブモー ド)	別添方法 9 別添方法 18
21	アセフェート	LC—MS法 (ポジティブモ ード)	別添方法 20
90	アゾキシストロ ビン	固相抽出—LC —MS法 (ポジ ティブモード)	別添方法 18
63	アトラジン	固相抽出—GC —MS法	別添方法 5

<u>アニロホス：失効農薬</u>	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5： <u>参 考</u>
<u>アミトラズ</u>	<u>LC—MS 法</u>	<u>別添方法 20：参 考</u>
<u>アメトリン：失効農薬</u>	固相抽出—G C —MS 法 <u>LC—MS 法</u>	<u>別添方法 5 の 2</u> <u>別添方法 20</u>
アラクロール	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
イソキサチオン 注 2)	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>イソフェンホス ：失効農薬 注 2)</u>	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5： <u>参 考</u>
イソプロカルブ (MIPC)	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
イソプロチオラ ン (IPT)	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>イナベンフィド ：失効農薬</u>	<u>LC—MS 法</u>	<u>別添方法 20</u>
イプロジオン	固相抽出—G C —MS 法 固相抽出—H P LC 法 固相抽出—L C —MS 法	別添方法 5 別添方法 9 別添方法 18
イプロベンホス (IBP)	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>イミダクロプリ ド</u>	<u>LC—MS 法</u>	<u>別添方法 20</u>

<u>62</u>	アニロホス	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>47</u>	アラクロール	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>5</u>	イソキサチオン 注 2)	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>22</u>	<u>イソフェンホス 注 2)：失効農 薬</u>	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>54</u>	イソプロカルブ (MIPC)	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>8</u>	イソプロチオラ ン (IPT)	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>26</u>	イプロジオン	固相抽出—G C —MS 法 固相抽出—H P LC 法 固相抽出—L C —MS 法 (<u>ポジ ティブモード</u>)	別添方法 5 別添方法 9 別添方法 18
<u>15</u>	イプロベンホス (IBP)	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5

イミノクタジン	固相抽出—H P L C—ポストカ ラム法 溶媒抽出—H P L C—ポストカ ラム法	別添方法 16： <u>参 考</u> 別添方法 17： <u>参 考</u>
<u>インダノファン</u>	固相抽出—G C —MS 法 L C—MS 法	別添方法 5 の 2 別添方法 20： <u>参 考</u>
<u>ウニコナゾール P</u>	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5 の 2
エスプロカルブ	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
エディフェンホ ス（エジフェン ホス、EDD P）： <u>失効農薬</u>	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>エトキシスルフ ロン</u>	L C—MS 法	別添方法 20： <u>参 考</u>
エトフェンプロ ックス	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>エトベンザニド</u>	固相抽出—G C —MS 法 L C—MS 法	別添方法 5 の 2 別添方法 20
エトリジアゾー ル（エクロメゾ ール）： <u>失効農 薬</u>	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5

<u>91</u>	イミノクタジン <u>酢酸塩</u>	固相抽出—H P L C—ポストカ ラム法 溶媒抽出—H P L C—ポストカ ラム法	別添方法 16 別添方法 17
<u>83</u>	エスプロカルブ	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>49</u>	エディフェンホ ス（エジフェン ホス、EDD P）	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>70</u>	エトフェンプロ ックス	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>27</u>	エトリジアゾー ル（エクロメゾ ール）	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5

エンドスルファ ン（ベンゾエピ ン）： <u>禁止・失 効農薬 注3）</u>	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>オキサジアルギ ル</u>	<u>L C—MS 法</u>	<u>別添方法 20</u>
<u>オキサジクロメ ホン</u>	<u>L C—MS 法</u>	<u>別添方法 20</u>
<u>オキサミル</u>	<u>L C—MS 法</u>	<u>別添方法 20：参 考</u>
オキシシン銅（ <u>有 機銅</u> ）	固相抽出—L C —MS 法 L C—MS 法	別添方法 18 別添方法 20
<u>オリサストロビ ン</u>	<u>固相抽出—G C —MS 法</u>	<u>別添方法 5 の 2</u>
<u>カズサホス</u>	<u>固相抽出—G C —MS 法</u>	<u>別添方法 5 の 2</u>
カフェンストロ ール	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
カルバリル（N A C）	固相抽出—H P L C 法 H P L C—ポス トカラム法 固相抽出—L C —MS 法	別添方法 10 別添方法 14 別添方法 18

<u>69</u>	エンドスルファ ン（ベンゾエピ ン）注3）	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>28</u>	オキシシン銅	固相抽出—L C —MS 法（ <u>ポジ ティブモード</u> ） L C—MS 法 （ <u>ポジティブモ ード</u> ）	別添方法 18 別添方法 20
<u>101</u>	カフェンストロ ール	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>48</u>	カルバリル（N A C）	固相抽出—H P L C 法 H P L C—ポス トカラム法 固相抽出—L C —MS 法（ <u>ポジ ティブモード</u> ）	別添方法 10 別添方法 14 別添方法 18

カルプロパミド	固相抽出—L C—MS 法	別添方法 18
カルボフラン	H P L C—ポストカラム法 固相抽出—L C—MS 法	別添方法 14 別添方法 18
<u>キザロホップエチル</u>	<u>L C—MS 法</u>	<u>別添方法 20</u>
<u>キノクラミン (A C N)</u>	<u>固相抽出—G C—MS 法</u>	<u>別添方法 5 の 2</u>
キャプタン	固相抽出—G C—MS 法	別添方法 5
<u>クミルロン</u>	<u>固相抽出—G C—MS 法</u> <u>L C—MS 法</u>	<u>別添方法 5 の 2</u> <u>別添方法 20</u>
グリホサート 注 4)	誘導体化—H P L C 法 H P L C—ポストカラム法	別添方法 12 別添方法 15
<u>クロチアニジン</u>	<u>L C—MS 法</u>	<u>別添方法 20</u>
<u>クロマフェノジド</u>	<u>L C—MS 法</u>	<u>別添方法 20</u>
<u>クロメプロップ</u>	<u>L C—MS 法</u>	<u>別添方法 20</u>
<u>クロルタールジメチル (T C T P) : 失効農薬</u>	<u>固相抽出—G C—MS 法</u>	<u>別添方法 5 の 2</u>

<u>58</u>	カルプロパミド	固相抽出—L C—MS 法 (<u>ポジティブモード・ネガティブモード</u>)	別添方法 18
<u>18</u>	カルボフラン (<u>カルボスルファエン代謝物</u>)	H P L C—ポストカラム法 固相抽出—L C—MS 法 (<u>ポジティブモード</u>)	別添方法 14 別添方法 18
<u>29</u>	キャプタン	固相抽出—G C—MS 法	別添方法 5
<u>72</u>	グリホサート 注 4)	誘導体化—H P L C 法 H P L C—ポストカラム法	別添方法 12 別添方法 15

クロルニトロフ ェン（ＣＮＰ） ：禁止・失効農 薬 注５）	固相抽出—ＧＣ —ＭＳ法	別添方法 ５：参 考
クロルピリホス 注２）	固相抽出—ＧＣ —ＭＳ法	別添方法 ５：参 考
クロルピリホス メチル	固相抽出—ＧＣ —ＭＳ法	別添方法 ５の ２
クロロタロニル （ＴＰＮ）	固相抽出—ＧＣ —ＭＳ法	別添方法 ５
クロロネブ	固相抽出—ＧＣ —ＭＳ法	別添方法 ５
シアナジン	固相抽出—ＧＣ —ＭＳ法 ＬＣ—ＭＳ法	別添方法 ５の ２ 別添方法 ２０
シアノホス（Ｃ ＹＡＰ）	固相抽出—ＧＣ —ＭＳ法	別添方法 ５の ２
ジウロン（ＤＣ ＭＵ）	固相抽出—ＬＣ —ＭＳ法	別添方法 １８
ジクロフェンチ オン（ＥＣＰ） ：失効農薬	固相抽出—ＧＣ —ＭＳ法	別添方法 ５の ２
ジクロベニル （ＤＢＮ）	固相抽出—ＧＣ —ＭＳ法	別添方法 ５
ジクロメジン： 失効農薬	ＬＣ—ＭＳ法	別添方法 ２０
ジクロルプロッ プ	ＬＣ—ＭＳ法	別添方法 ２０

13	クロルニトロフ ェン（ＣＮＰ） ：失効農薬	固相抽出—ＧＣ —ＭＳ法	別添方法 ５
23	クロルピリホス 注２）	固相抽出—ＧＣ —ＭＳ法	別添方法 ５
9	クロロタロニル （ＴＰＮ）	固相抽出—ＧＣ —ＭＳ法	別添方法 ５
30	クロロネブ	固相抽出—ＧＣ —ＭＳ法	別添方法 ５
68	ジウロン（ＤＣ ＭＵ）	固相抽出—ＬＣ —ＭＳ法（ポジ ティブモード・ ネガティブモー ド）	別添方法 １８
65	ジクロベニル （ＤＢＮ）	固相抽出—ＧＣ —ＭＳ法	別添方法 ５

ジクロルボス (DDVP) <u>：失効農薬</u>	固相抽出—GC —MS法	別添方法 5
ジクワット	固相抽出—HP LC法	別添方法 11： <u>参 考</u>
<u>ジスルホトン</u> (エチルチオメ トン)	固相抽出—GC —MS法	別添方法 5
ジチオピル	固相抽出—GC —MS法	別添方法 5
シデュロン	固相抽出—HP LC法 固相抽出—LC —MS法	別添方法 9 別添方法 18
<u>シノスルフロン</u> <u>：失効農薬</u>	LC—MS法	別添方法 <u>20：参 考</u>
<u>ジノテフラン</u>	LC—MS法	別添方法 20
<u>シハロホップブ チル</u>	固相抽出—GC —MS法	別添方法 5 の 2
<u>ジフェノコナゾ ール</u>	固相抽出—GC —MS法 LC—MS法	別添方法 5 の 2 別添方法 20
<u>ジフルベンズロ ン</u>	LC—MS法	別添方法 20： <u>参 考</u>
<u>シプロコナゾー ル</u>	固相抽出—GC —MS法 LC—MS法	別添方法 5 の 2 別添方法 20

<u>11</u>	ジクロルボス (DDVP)	固相抽出—GC —MS法	別添方法 5
<u>67</u>	ジクワット	固相抽出—HP LC法	別添方法 11
<u>81</u>	エチルチオメ ン	固相抽出—GC —MS法	別添方法 5
<u>37</u>	ジチオピル	固相抽出—GC —MS法	別添方法 5
<u>98</u>	シデュロン	固相抽出—HP LC法 固相抽出—LC —MS法 (ポジ ティブモード・ ネガティブモー ド)	別添方法 9 別添方法 18

<u>シプロジニル</u>	<u>固相抽出—G C</u> <u>—MS 法</u> <u>LC—MS 法</u>	<u>別添方法 5 の 2</u> <u>別添方法 20</u>
シマジン (C A T)	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>シメコナゾール</u>	<u>固相抽出—G C</u> <u>—MS 法</u> <u>LC—MS 法</u>	<u>別添方法 5 の 2</u> <u>別添方法 20</u>
ジメタメトリン	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>ジメチルビンホ</u> <u>ス：失効農薬</u>	<u>固相抽出—G C</u> <u>—MS 法</u>	<u>別添方法 5 の 2</u>
ジメトエート	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
シメトリン	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
ジメピペレート ：失効農薬	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>シラフルオフエ</u> <u>ン</u>	<u>LC—MS 法</u>	<u>別添方法 20：参</u> <u>考</u>
<u>シンメチリン：</u> <u>失効農薬</u>	<u>固相抽出—G C</u> <u>—MS 法</u>	<u>別添方法 5 の 2</u>
ダイアジノン 注 2)	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
ダイムロン	固相抽出—L C —MS 法	別添方法 18

<u>2</u>	シマジン (C A T)	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>89</u>	ジメタメトリン	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>66</u>	ジメトエート	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>77</u>	シメトリン	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>78</u>	ジメピペレート ：失効農薬	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>6</u>	ダイアジノン 注 2)	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>84</u>	ダイムロン	固相抽出—L C —MS 法 (<u>ポジ</u> <u>ティブモード・</u> <u>ネガティブモー</u> <u>ド</u>)	別添方法 18

<u>チアクロプリド</u>	<u>固相抽出—G C</u> <u>—MS 法</u> <u>L C—MS 法</u>	<u>別添方法 5 の 2</u> <u>別添方法 20</u>
<u>チアジニル</u>	<u>L C—MS 法</u>	<u>別添方法 20</u>
<u>チアメトキサム</u>	<u>固相抽出—G C</u> <u>—MS 法</u> <u>L C—MS 法</u>	<u>別添方法 5 の 2</u> <u>別添方法 20</u>
チウラム	固相抽出—L C —MS 法	別添方法 18
チオジカルブ	固相抽出—L C —MS 法	別添方法 18
チオファネート メチル	固相抽出—H P L C 法 固相抽出—L C —MS 法	別添方法 9 別添方法 19
チオベンカルブ	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>チフルザミド</u>	<u>固相抽出—G C</u> <u>—MS 法</u> <u>L C—MS 法</u>	<u>別添方法 5 の 2</u> <u>別添方法 20</u>
<u>テトラクロルビ ンホス（CVM P）：失効農薬</u>	<u>固相抽出—G C</u> <u>—MS 法</u> <u>L C—MS 法</u>	<u>別添方法 5 の 2</u> <u>別添方法 20</u>
<u>テトラコナゾー ル</u>	<u>固相抽出—G C</u> <u>—MS 法</u> <u>L C—MS 法</u>	<u>別添方法 5 の 2</u> <u>別添方法 20</u>
テニルクロール	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5

<u>1</u>	チウラム	固相抽出—L C —MS 法（ <u>ポジ ティブモード</u> ）	別添方法 18
<u>96</u>	チオジカルブ	固相抽出—L C —MS 法（ <u>ポジ ティブモード</u> ）	別添方法 18
<u>55</u>	チオファネート メチル	固相抽出—H P L C 法 固相抽出—L C —MS 法（ <u>ポジ ティブモード</u> ）	別添方法 9 別添方法 19
<u>3</u>	チオベンカルブ	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>56</u>	テニルクロール	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5

<u>テブコナゾール</u>	<u>固相抽出—G C</u> <u>—MS 法</u> <u>LC—MS 法</u>	<u>別添方法 5 の 2</u> <u>別添方法 20</u>
<u>テブフェノジド</u>	<u>LC—MS 法</u>	<u>別添方法 20</u>
テルブカルブ (MB PMC) : 失効農薬	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
トリクロピル	固相抽出—誘導 体化—G C—M S 法 固相抽出—L C —MS 法	別添方法 6 別添方法 18
トリクロルホン (DE P)	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
トリシクラゾー ル	固相抽出—L C —MS 法	別添方法 18
<u>トリネキサパッ クエチル</u>	<u>LC—MS 法</u>	<u>別添方法 20</u>
<u>トリフルミゾー ル</u>	<u>固相抽出—G C</u> <u>—MS 法</u> <u>LC—MS 法</u>	<u>別添方法 5 の 2</u> <u>: 参考</u> <u>別添方法 20 : 参</u> <u>考</u>
トリフルラリン	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
トルクロホスメ チル 注 2)	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>ナプロアニリド</u> : 失効農薬	<u>LC—MS 法</u>	<u>別添方法 20</u>

<u>38</u>	テルブカルブ (MB PMC) : 失効農薬	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>20</u>	トリクロピル	固相抽出—誘導 体化—G C—M S 法 固相抽出—L C —MS 法 (<u>ネガ ティブモード</u>)	別添方法 6 別添方法 18
<u>24</u>	トリクロルホン (DE P)	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>87</u>	トリシクラゾー ル	固相抽出—L C —MS 法 (<u>ポジ ティブモード</u>)	別添方法 18
<u>100</u>	トリフルラリン	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>31</u>	トルクロホスメ チル 注 2)	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5

ナプロパミド	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
ニテンピラム	L C—MS 法	別添方法 20
パクロブトラゾ ール	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5 の 2
ハロスルフロ ンメチル	固相抽出—L C —MS 法	別添方法 18
ビフェノックス ：失効農薬	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
ピペロホス：失 効農薬	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5：参 考
ピメトロジン	L C—MS 法	別添方法 20
ピラクロホス： 失効農薬	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5 の 2
ピラゾキシフェ ン	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5 の 2
ピラゾスルフロ ンエチル	L C—MS 法	別添方法 20：参 考
ピラゾリネート (ピラゾレー ト)	L C—MS 法	別添方法 20：参 考
ピリダフェンチ オン：失効農薬	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5：参 考
ピリブチカルブ	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
ピリプロキシフ エン	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5

39	ナプロパミド	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
94	ハロスルフロ ンメチル	固相抽出—L C —MS 法 (ポジ ティブモード・ ネガティブモー ド)	別添方法 18
85	ビフェノックス ：失効農薬	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
88	ピペロホス：失 効農薬	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
25	ピリダフェンチ オン：失効農薬	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
40	ピリブチカルブ	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
99	ピリプロキシフ エン	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5

<u>ピリミノバック メチル</u>	固相抽出—G C —MS 法 <u>LC—MS 法</u>	<u>別添方法 5 の 2</u> <u>別添方法 20</u>
<u>ピリミホスメチ ル</u>	固相抽出—G C —MS 法 <u>LC—MS 法</u>	<u>別添方法 5 の 2</u> <u>別添方法 20</u>
ピロキロン	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
フィプロニル	固相抽出—L C —MS 法	別添方法 18
フェントロチオ ン (ME P) 注 2)	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
フェノブカルブ (B PMC)	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
フェンチオン (MPP) 注 6)	固相抽出—G C —MS 法 固相抽出—L C —MS 法	別添方法 5 別添方法 18
フェントエート (PAP)	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>フェントラザミ ド</u>	<u>LC—MS 法</u>	<u>別添方法 20</u>
フサライド	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>ブタクロール</u>	固相抽出—G C —MS 法	<u>別添方法 5 の 2</u>
ブタミホス 注 2)	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5

<u>50</u>	ピロキロン	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>102</u>	フィプロニル	固相抽出—L C —MS 法 (<u>ネガ ティブモード</u>)	別添方法 18
<u>7</u>	フェントロチオ ン (ME P) 注 2)	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>12</u>	フェノブカルブ (B PMC)	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>71</u>	フェンチオン (MPP) 注 6)	固相抽出—G C —MS 法 固相抽出—L C —MS 法 (<u>ポジ ティブモード</u>)	別添方法 5 別添方法 18
<u>79</u>	フェントエート (PAP)	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>51</u>	フサライド	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>41</u>	ブタミホス 注 2)	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5

ブプロフェジン	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
フラザスルフロ ン	固相抽出—L C —MS 法	別添方法 18
<u>フラメトピル</u>	<u>固相抽出—G C</u> <u>—MS 法</u> <u>L C—MS 法</u>	<u>別添方法 5 の 2</u> <u>別添方法 20</u>
<u>フルアジナム</u>	<u>L C—MS 法</u>	<u>別添方法 20</u>
<u>フルアジホップ</u>	<u>L C—MS 法</u>	<u>別添方法 20</u>
<u>フルスルファミ ド</u>	<u>L C—MS 法</u>	<u>別添方法 20</u>
フルトラニル	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
プレチラクロー ル	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
プロシミドン	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>プロパニル (D C P A) : 失効 農薬</u>	<u>固相抽出—G C</u> <u>—MS 法</u> <u>L C—MS 法</u>	<u>別添方法 5 の 2</u> <u>別添方法 20</u>
<u>プロパホス : 失 効農薬</u>	<u>固相抽出—G C</u> <u>—MS 法</u>	<u>別添方法 5 の 2</u> <u>: 参考</u>
プロピコナゾー ル	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
プロピザミド	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5

<u>80</u>	ブプロフェジン	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>95</u>	フラザスルフロ ン	固相抽出—L C —MS 法 (<u>ポジ ティブモード・ ネガティブモー ド</u>)	別添方法 18
<u>32</u>	フルトラニル	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>53</u>	プレチラクロー ル	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>61</u>	プロシミドン	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>97</u>	プロピコナゾー ル	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>10</u>	プロピザミド	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5

プロベナゾール	固相抽出—L C —MS 法	別添方法 18
<u>プロポキスル</u> (PHC) : 失 効農薬	<u>固相抽出—G C</u> <u>—MS 法</u>	<u>別添方法 5 の 2</u>
<u>ブロマシル</u>	<u>固相抽出—G C</u> <u>—MS 法</u> L C—MS 法	<u>別添方法 5 の 2</u> 別添方法 20
<u>プロメトリン</u>	<u>固相抽出—G C</u> <u>—MS 法</u> L C—MS 法	<u>別添方法 5 の 2</u> 別添方法 20
ブロモブチド	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
ベノミル 注 7)	固相抽出—L C —MS 法	別添方法 18
ペンシクロン	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
ベンスリド (S A P) : 失効農 薬	固相抽出—L C —MS 法	別添方法 18
ベンスルフロン メチル	固相抽出—L C —MS 法	別添方法 18
<u>ベンゾビシクロ</u> <u>ン</u>	<u>L C—MS 法</u>	<u>別添方法 20 : 参</u> <u>考</u>

<u>82</u>	プロベナゾール	固相抽出—L C —MS 法 (<u>ポジ</u> <u>ティブモード</u>)	別添方法 18
<u>59</u>	ブロモブチド	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>75</u>	ベノミル 注 5)	固相抽出—L C —MS 法 (<u>ポジ</u> <u>ティブモード</u>)	別添方法 18
<u>33</u>	ペンシクロン	固相抽出—G C —MS 法	別添方法 5
<u>42</u>	ベンスリド (S A P) : 失効農 薬	固相抽出—L C —MS 法 (<u>ポジ</u> <u>ティブモード・</u> <u>ネガティブモー</u> <u>ド</u>)	別添方法 18
<u>86</u>	ベンスルフロン メチル	固相抽出—L C —MS 法 (<u>ポジ</u> <u>ティブモード・</u> <u>ネガティブモー</u> <u>ド</u>)	別添方法 18

<u>ベンゾフェナッ プ</u>	<u>LC—MS法</u>	<u>別添方法 20</u>
<u>ベンダイオカル プ：失効農薬</u>	<u>LC—MS法</u>	<u>別添方法 20：参 考</u>
ベンタゾン	固相抽出—誘導 体化—GC—M S法 固相抽出—LC —MS法	別添方法 6 別添方法 18
ペンディメタリ ン	固相抽出—GC —MS法	別添方法 5
<u>ペントキサゾン</u>	<u>LC—MS法</u>	<u>別添方法 20：参 考</u>
ベンフラカルブ	固相抽出—LC —MS法	別添方法 19
ベンフルラリン (ベスロジン)	固相抽出—GC —MS法	別添方法 5
<u>ベンフレセート</u>	<u>固相抽出—GC —MS法</u>	<u>別添方法 5 の 2</u>
<u>ホキシム</u>	<u>LC—MS法</u>	<u>別添方法 20：参 考</u>
<u>ホサロン</u>	<u>固相抽出—GC —MS法</u>	<u>別添方法 5 の 2</u>
<u>ボスカリド</u>	<u>固相抽出—GC —MS法</u> <u>LC—MS法</u>	<u>別添方法 5 の 2</u> <u>別添方法 20</u>

<u>17</u>	<u>ベンタゾン：失 効農薬</u>	固相抽出—誘導 体化—GC—M S法 固相抽出—LC —MS法 (<u>ポジ ティブモード・ ネガティブモー ド</u>)	別添方法 6 別添方法 18
<u>44</u>	ペンディメタリ ン	固相抽出—GC —MS法	別添方法 5
<u>76</u>	ベンフラカルブ	固相抽出—LC —MS法 (<u>ポジ ティブモード</u>)	別添方法 19
<u>43</u>	ベンフルラリン (ベスロジン)	固相抽出—GC —MS法	別添方法 5

<u>ホスチアゼート</u>	<u>固相抽出—G C—MS 法</u>	<u>別添方法 5 の 2</u>
ホセチル	L C—MS 法	別添方法 20
ポリカーバメート： <u>失効農薬</u>	誘導体化—H P L C 法	別添方法 13： <u>参考</u>
<u>マラチオン（マラソン） 注 2）</u>	固相抽出—G C—MS 法	別添方法 5
メコプロップ（M C P P）	固相抽出—誘導体化—G C—M S 法 固相抽出—L C—MS 法	別添方法 6 別添方法 18
メソミル	H P L C—ポストカラム法 固相抽出—L C—MS 法	別添方法 14 別添方法 18
メタラキシル	固相抽出—G C—MS 法	別添方法 5
メチダチオン（D M T P）	固相抽出—G C—MS 法	別添方法 5
メチルダイムロン： <u>失効農薬</u>	固相抽出—G C—MS 法	別添方法 5
<u>メトミノストロビン</u>	<u>固相抽出—G C—MS 法</u> <u>L C—MS 法</u>	<u>別添方法 5 の 2</u> <u>別添方法 20</u>
<u>メトラクロール</u>	<u>固相抽出—G C—MS 法</u>	<u>別添方法 5 の 2</u>

<u>92</u>	ホセチル	L C—MS 法 <u>（ネガティブモード）</u>	別添方法 20
<u>93</u>	ポリカーバメート	誘導体化—H P L C 法	別添方法 13
<u>73</u>	<u>マラソン（マラチオン） 注 2）</u>	固相抽出—G C—MS 法	別添方法 5
<u>45</u>	メコプロップ（M C P P）	固相抽出—誘導体化—G C—M S 法 固相抽出—L C—MS 法 <u>（ネガティブモード）</u>	別添方法 6 別添方法 18
<u>74</u>	メソミル	H P L C—ポストカラム法 固相抽出—L C—MS 法 <u>（ポジティブモード）</u>	別添方法 14 別添方法 18
<u>34</u>	メタラキシル	固相抽出—G C—MS 法	別添方法 5
<u>57</u>	メチダチオン（D M T P）	固相抽出—G C—MS 法	別添方法 5
<u>46</u>	メチルダイムロン： <u>失効農薬</u>	固相抽出—G C—MS 法	別添方法 5

<u>メトリブジン</u>	<u>固相抽出—GC</u> <u>—MS法</u> <u>LC—MS法</u>	<u>別添方法5の2</u> <u>別添方法20</u>
メフェナセット	固相抽出—GC —MS法	別添方法5
メプロニル	固相抽出—GC —MS法	別添方法5
<u>モノクロトホス</u> <u>:失効農薬</u>	<u>LC—MS法</u>	<u>別添方法20</u>
モリネート	固相抽出—GC —MS法	別添方法5
<u>リニュロン</u>	<u>LC—MS法</u>	<u>別添方法20</u>
(削る)	(削る)	(削る)

注1) 1, 3—ジクロロプロペン (D—D) の濃度は、異性体であるシス—1, 3—ジクロロプロペン及びトランス—1, 3—ジクロロプロペンの濃度を合計して算出すること。

注2) 有機リン系農薬のうち、E P N、イソキサチオン、イソフェンホス、クロルピリホス、ダイアジノン、トルクロホスメチル、フェニトロチオン、(M E P)、ブタミホス及びマラチオン (マラソン)については、オキソン体の濃度も測定し、測定結果についてはそれぞれ別途記録すること。また、総農薬の指標値の算出に当たっては、それぞれの原体の濃度と、当該オキソン体の濃度を原体に換算し、その濃度を合計して算出すること。

注3) エンドスルフアン (ベンゾエピン) の濃度は、異性体である α —エンドスルフアン、 β —エンドスルフアン及び代謝物であるエンドスルフェート (ベンゾエピンスルフェート) の濃度を合計して算出すること。

注4) グリホサートについては、代謝物であるアミノメチルリン酸 (AMP A) も測定し、測定結果についてはそれぞれ別途記録すること。また、グリホサートの濃度は、原体の濃度とアミノメチルリン酸 (AMP A) の濃度を原体に換算したものを合計して算出すること。

<u>52</u>	メフェナセット	固相抽出—GC —MS法	別添方法5
<u>35</u>	メプロニル	固相抽出—GC —MS法	別添方法5
<u>60</u>	モリネート	固相抽出—GC —MS法	別添方法5
<u>14</u>	<u>C N P—アミノ</u> <u>体</u>	<u>固相抽出—GC</u> <u>—MS法</u>	<u>別添方法5</u>

注1) 1, 3—ジクロロプロペン (D—D) の濃度は、異性体であるシス—1, 3—ジクロロプロペン及びトランス—1, 3—ジクロロプロペンの濃度を合計して算出すること。

注2) 有機リン系農薬のうち、イソキサチオン、ダイアジノン、フェニトロチオン、E P N、イソフェンホス、クロルピリホス、トルクロホスメチル、ブタミホス及びマラソンについては、別添方法5に従ってオキソン体の濃度も測定し、測定結果についてはそれぞれ別途記録すること。また、総農薬の指標値の算出に当たっては、それぞれの原体の濃度と、当該オキソン体の濃度を原体に換算し、その濃度を合計して算出すること。

注3) エンドスルフアン (ベンゾエピン) の濃度は、異性体である α —エンドスルフアン、 β —エンドスルフアン及び代謝物であるエンドスルフェート (ベンゾエピンスルフェート) の濃度を合計して算出すること。

注4) グリホサートについては、代謝物であるアミノメチルリン酸 (AMP A) も測定すること。

<u>注5) クロルニトロフェン (CNP) については、アミノ体の濃度も測定し、測定結果についてはそれぞれ別途記録すること。また、クロルニトロフェン (CNP) の濃度は、原体の濃度とアミノ体の濃度を原体に換算したものを合計して算出すること。</u> 注6) フェンチオン (MPP) はその酸化物であるMPPスルホキシド、MPPスルホン、MPPオキソン、MPPオキシンスルホキシド及びMPPオキシンスルホンの濃度も測定し、測定結果についてはそれぞれ別途記録すること。また、総農薬の指標値の算出に当たっては、フェンチオン(MPP)の原体の濃度と、その酸化物それぞれの濃度を原体に換算し、その濃度を合計して算出すること。 <u>注7) ベノミルはメチル—2—ベンツイミダゾールカルバメート (MBC) に変化することから、メチル—2—ベンツイミダゾールカルバメート (MBC) として測定すること。</u> 目標16～目標30 (略) 別添方法1～別添方法4 (略)	注6) フェンチオン (MPP) は別添方法5又は別添方法18に従ってその酸化物であるMPPスルホキシド、MPPスルホン、MPPオキソン、MPPオキシンスルホキシド及びMPPオキシンスルホンの濃度も測定し、測定結果についてはそれぞれ別途記録すること。また、総農薬の指標値の算出に当たっては、フェンチオン (MPP) の原体の濃度と、その酸化物それぞれの濃度を原体に換算し、その濃度を合計して算出すること。 <u>注5) ベノミルはメチル—2—ベンツイミダゾールカルバメート (MBC) に変化することから、メチル—2—ベンツイミダゾールカルバメート (MBC) として測定すること。</u> 目標16～目標30 (略) 別添方法1～別添方法4 (略)
別添方法5 固相抽出—ガスクロマトグラフ—質量分析計による一斉分析法 <u>ここで対象とする農薬は、EPN、アトラジン、アニロホス、アラクロール、イソキサチオン、イソフェンホス、イソプロカルブ (MIPC)、イソプロチオラン (IPT)、イプロジオン、イプロベンホス (IBP)、エスプロカルブ、エディフェンホス (エジフェンホス、EDDP)、エトフェンプロックス、エトリジアゾール (エクロメゾール)、エンドスルフアン (ベンゾエピン)、カフェンストロール、キャプタン、クロルニトロフェン (CNP)、クロルピリホス、クロロタロニル (TPN)、クロロネブ、ジクロベニル (DBN)、ジクロルボス (DDVP)、ジスルホトン (エチルチオメトン)、ジチオピル、シマジン (CA</u>	別添方法5 固相抽出—ガスクロマトグラフ—質量分析計による一斉分析法 <u>ここで対象とする農薬は、シマジン (CAT)、チオベンカルブ、イソキサチオン、ダイアジノン、フェニトロチオン (MEP)、イソプロチオラン (IPT)、クロロタロニル (TPN)、プロピザミド、ジクロルボス (DDVP)、フェノブカルブ (BPMC)、クロルニトロフェン (CNP)、CNP—アミノ体、イプロベンホス (IBP)、EPN、イソフェンホス、クロルピリホス、トリクロルホン (DEP)、ピリダフェンチオン、イプロジオン、エトリジアゾール (エクロメゾール)、キャプタン、クロロネブ、トルクロホスメチル、フルトラニル、ペンシクロン、メタラキシル、メプロニル、ジチオピル、テルブカルブ (MB</u>

T)、ジメタメトリン、ジメトエート、シメトリン、ジメピペレート、ダイアジノン、チオベンカルブ、テニルクロール、テルブカルブ (MBPMC)、トリクロロホン (DEP)、トリフルラリン、トルクロホスメチル、ナプロパミド、ビフェノックス、ピペロホス、ピリダフェンチオン、ピリブチカルブ、ピリプロキシフェン、ピロキロン、フェニトロチオン (MEP)、フェノブカルブ (BPMC)、フェンチオン (MPP)、フェントエート (PAP)、フサライド、ブタミホス、ブプロフェジン、フルトラニル、プレチラクロール、プロシミドン、プロピコナゾール、プロピザミド、ブロモブチド、ペンシクロン、ペンディメタリン、ベンフルラリン (ベスロジン)、マラチオン (マラソン)、メタラキシル、メチダチオン (DMTP)、メチルダイムロン、メフェナセット、メプロニル及びモリネートである。ただし、エンドスルファン (ベンゾエピン) はα-エンドスルファン及びβ-エンドスルファンの異性体、代謝物であるエンドスルフェート (ベンゾエピンスルフェート) を、クロルニトロフェン (CNP) は代謝物であるCNP-アミノ体をそれぞれ測定する。また、プロピコナゾールは2つのピークに分かれるので、それぞれ測定する。更に、EPN、イソキサチオン、イソフェンホス、クロルピリホス、ダイアジノン、トルクロホスメチル、フェニトロチオン、ブタミホス及びマラチオン (マラソン) については、それぞれのオキソン体を測定する。また、フェンチオン (MPP) については、その酸化物であるMPPスルホキシド、MPPスルホン、MPPオキソン、MPPオキシンスルホキシド及びMPPオキシンスルホンをそれぞれ測定する。 1 試薬 (1)～(6) (略) (7) 農薬標準原液 <u>EPN、アトラジン、アニロホス、アラクロール、イソキサチオン、イソフェンホス、イソプロカルブ (MIPC)、イソプロチオラン (IPT)、イプロジオン、イプロベンホ</u>	<u>PMC)、ナプロパミド、ピリブチカルブ、ブタミホス、ベンフルラリン (ベスロジン)、ペンディメタリン、メチルダイムロン、アラクロール、エディフェンホス (エジフェンホス、EDDP)、ピロキロン、フサライド、メフェナセット、プレチラクロール、イソプロカルブ (MIPC)、テニルクロール、メチダチオン (DMTP)、ブロモブチド、モリネート、プロシミドン、アニロホス、アトラジン、ジクロベニル (DBN)、ジメトエート、エンドスルファン (ベンゾエピン)、エトフェンプロックス、フェンチオン (MPP)、マラソン (マラチオン)、シメトリン、ジメピペレート、フェントエート (PAP)、ブプロフェジン、エチルチオメトン、エスプロカルブ、ビフェノックス、ピペロホス、ジメタメトリン、プロピコナゾール、ピリプロキシフェン、トリフルラリン及びカフェンストロールである。ただし、エンドスルファン (ベンゾエピン) はα-エンドスルファン及びβ-エンドスルファンの異性体、代謝物であるエンドスルフェート (ベンゾエピンスルフェート) をそれぞれ測定する。また、プロピコナゾールは2つのピークに分かれるので、それぞれ測定する。更に、イソキサチオン、ダイアジノン、フェニトロチオン、EPN、イソフェンホス、クロルピリホス、トルクロホスメチル、ブタミホス及びマラソンについては、それぞれのオキソン体を測定する。また、フェンチオン (MPP) については、その酸化物であるMPPスルホキシド、MPPスルホン、MPPオキソン、MPPオキシンスルホキシド及びMPPオキシンスルホンをそれぞれ測定する。</u> 1 試薬 (1)～(6) (略) (7) 農薬標準原液 <u>シマジン (CAT)、チオベンカルブ、イソキサチオン、ダイアジノン、フェニトロチオン (MEP)、イソプロチオラン (IPT)、クロロタロニル (TPN)、プロピザミド</u>
---	---

ス（IBP）、エスプロカルブ、エディフェンホス（エジフェンホス、EDDP）、エトフェンブロックス、エトリジアゾール（エクロメゾール）、 α －、 β －エンドスルファン（ベンゾエピン）、エンドスルフェート（ベンゾエピンスルフェート）、カフェンストロール、キャプタン、クロルニトロフェン（CNP）、クロルピリホス、クロロタロニル（TPN）、クロロネブ、ジクロベニル（DBN）、ジクロルボス（DDVP）、ジスルホトン（エチルチオメトン）、ジチオピル、シマジン（CAT）、ジメタメトリン、ジメトエート、シメトリン、ジメピペレート、ダイアジノン、チオベンカルブ、テニルクロール、テルブカルブ（MBPMC）、トリフルラリン、トルクロホスメチル、ナプロパミド、ビフェノックス、ピペロホス、ピリダフェンチオン、ピリブチカルブ、ピリプロキシフェン、ピロキロン、フェニトロチオン（MEP）、フェノブカルブ（BPMC）、フェンチオン（MPP）、フェントエート（PAP）、フサライド、ブタミホス、ブプロフェジン、フルトラニル、プレチラクロール、プロピザミド、プロモブチド、ペンシクロン、ペンディメタリン、ベンフルラリン（ベスロジン）、マラチオン（マラソン）、メタラキシル、メチダチオン（DMTP）、メチルダイムロン、メフェナセット、メプロニル、モリネート、イソフェンホスオキソン、ダイアジノンオキソン、トルクロホスメチルオキソン、フェニトロチオンオキソン、MPPスルホキシド、MPPスルホン、MPPオキソン、MPPオキシンスルホキシド及びMPPオキシンスルホンはそれぞれ10mg、EPNオキソン、イソキサチオンオキソン、CNP－アミノ体、クロルピリホスオキソン、トリクロルホン（DEP）、ブタミホスオキソン、プロシミドン、プロピコナゾール及びマラオキソンはそれぞれ100mgを別々のメスフラスコに採り、それぞれをジクロロメタンに溶かして100mlとしたもの

これらの溶液 1mlは、EPN、アトラジン、アニロホス、

、ジクロルボス（DDVP）、フェノブカルブ（BPMC）、クロルニトロフェン（CNP）、イプロベンホス（IBP）、EPN、イソフェンホス、クロルピリホス、ピリダフェンチオン、イプロジオン、エトリジアゾール（エクロメゾール）、キャプタン、クロロネブ、トルクロホスメチル、フルトラニル、ペンシクロン、メタラキシル、メプロニル、ジチオピル、テルブカルブ（MBPMC）、ナプロパミド、ピリブチカルブ、ブタミホス、ベンフルラリン（ベスロジン）、ペンディメタリン、メチルダイムロン、アラクロール、エディフェンホス（エジフェンホス、EDDP）、ピロキロン、フサライド、メフェナセット、プレチラクロール、イソプロカルブ（MIPC）、テニルクロール、メチダチオン（DMTP）、プロモブチド、モリネート、アニロホス、アトラジン、ジクロベニル（DBN）、ジメトエート、 α －、 β －エンドスルファン（ベンゾエピン）、エンドスルフェート（ベンゾエピンスルフェート）、エトフェンブロックス、フェンチオン（MPP）、マラソン（マラチオン）、シメトリン、ジメピペレート、フェントエート（PAP）、ブプロフェジン、エチルチオメトン、エスプロカルブ、ビフェノックス、ピペロホス、ジメタメトリン、ピリプロキシフェン、トリフルラリン、カフェンストロール、ダイアジノンオキソン、フェニトロチオンオキソン、イソフェンホスオキソン、トルクロホスメチルオキソン、MPPスルホキシド、MPPスルホン、MPPオキソン、MPPオキシンスルホキシド及びMPPオキシンスルホンはそれぞれ10mg、CNP－アミノ体、トリクロルホン（DEP）、プロシミドン、プロピコナゾール、イソキサチオンオキソン、EPNオキソン、クロルピリホスオキソン、ブタミホスオキソン及びマラオキソンはそれぞれ100mgを別々のメスフラスコに採り、それぞれをジクロロメタンに溶かして100mlとしたもの

アラクロール、イソキサチオン、イソフェンホス、イソプロカルブ (MIPC)、イソプロチオラン (IPT)、イプロジオン、イプロベンホス (IBP)、エスプロカルブ、エディフェンホス (エジフェンホス、EDDP)、エトフェンプロックス、エトリジアゾール (エクロメゾール)、 α ー、 β ーエンドスルファン (ベンゾエピン)、エンドスルフェート (ベンゾエピンスルフェート)、カフェンストロール、キャプタン、クロルニトロフェン (CNP)、クロルピリホス、クロロタロニル (TPN)、クロロネブ、ジクロベニル (DBN)、ジクロルボス (DDVP)、ジスルホトン (エチルチオメトン)、ジチオピル、シマジン (CAT)、ジメタメトリン、ジメトエート、シメトリン、ジメピペレート、ダイアジノン、チオベンカルブ、テニルクロール、テルブカルブ (MBPMC)、トリフルラリン、トルクロホスメチル、ナプロパミド、ビフェノックス、ピペロホス、ピリダフェンチオン、ピリブチカルブ、ピリプロキシフェン、ピロキロン、フェニトロチオン (MEP)、フェノブカルブ (BPMC)、フェンチオン (MPP)、フェントエート (PAP)、フサライド、ブタミホス、ブプロフェジン、フルトラニル、プレチラクロール、プロピザミド、プロモブチド、ペンシクロン、ペンディメタリン、ベンフルラリン (ベスロジン)、マラチオン (マラソン)、メタラキシル、メチダチオン (DMTP)、メチルダイムロン、メフェナセット、メプロニル、モリネート、イソフェンホスオキソン、ダイアジノンオキソン、トルクロホスメチルオキソン、フェニトロチオンオキソン、MPPスルホキシド、MPPスルホン、MPPオキソン、MPPオキシンスルホキシド及びMPPオキシンスルホンをそれぞれ0.1mg、EPNオキソン、イソキサチオンオキソン、CNPーアミノ体、クロルピリホスオキソン、トリクロルホン (DEP)、ブタミホスオキソン、プロシミドン、プロピコナゾール及びマラオキソンをそれぞれ1mg含む。

これらの溶液1mlは、シマジン (CAT)、チオベンカルブ、イソキサチオン、ダイアジノン、フェニトロチオン (MEP)、イソプロチオラン (IPT)、クロロタロニル (TPN)、プロピザミド、ジクロルボス (DDVP)、フェノブカルブ (BPMC)、クロルニトロフェン (CNP)、イプロベンホス (IBP)、EPN、イソフェンホス、クロルピリホス、ピリダフェンチオン、イプロジオン、エトリジアゾール (エクロメゾール)、キャプタン、クロロネブ、トルクロホスメチル、フルトラニル、ペンシクロン、メタラキシル、メプロニル、ジチオピル、テルブカルブ (MBPMC)、ナプロパミド、ピリブチカルブ、ブタミホス、ベンフルラリン (ベスロジン)、ペンディメタリン、メチルダイムロン、アラクロール、エディフェンホス (エジフェンホス、EDDP)、ピロキロン、フサライド、メフェナセット、プレチラクロール、イソプロカルブ (MIPC)、テニルクロール、メチダチオン (DMTP)、プロモブチド、モリネート、アニロホス、アトラジン、ジクロベニル (DBN)、ジメトエート、 α ー、 β ーエンドスルファン (ベンゾエピン)、エンドスルフェート (ベンゾエピンスルフェート)、エトフェンプロックス、フェンチオン (MPP)、マラソン (マラチオン)、シメトリン、ジメピペレート、フェントエート (PAP)、ブプロフェジン、エチルチオメトン、エスプロカルブ、ビフェノックス、ピペロホス、ジメタメトリン、ピリプロキシフェン、トリフルラリン、カフェンストロール、ダイアジノンオキソン、フェニトロチオンオキソン、イソフェンホスオキソン、トルクロホスメチルオキソン、MPPスルホキシド、MPPスルホン、MPPオキソン、MPPオキシンスルホキシド及びMPPオキシンスルホンをそれぞれ0.1mg、CNPーアミノ体、トリクロルホン (DEP)、プロシミドン、プロピコナゾール、イソキサチオンオキソン、EPNオキソン、クロルピリホスオキソン、ブタミホスオキソン及

これらの溶液は、冷凍保存する。

(8) 農薬混合標準液

それぞれの農薬標準原液の等量ずつをメスフラスコに採り、ジクロロメタンで100倍に薄めたもの

この溶液 1 ml は、EPN、アトラジン、アニロホス、アラクロール、イソキサチオン、イソフェンホス、イソプロカルブ (MIPC)、イソプロチオラン (IPT)、イプロジオン、イプロベンホス (IBP)、エスプロカルブ、エディフェンホス (エジフェンホス、EDDP)、エトフェンブロックス、エトリジアゾール (エクロメゾール)、 α ー、 β ーエンドスルフアン (ベンゾエピン)、エンドスルフェート (ベンゾエピンスルフェート)、カフェンストロール、キャプタン、クロルニトロフェン (CNP)、クロルピリホス、クロロタロニル (TPN)、クロロネブ、ジクロベニル (DBN)、ジクロルボス (DDVP)、ジスルホトン (エチルチオメトン)、ジチオピル、シマジン (CAT)、ジメタメトリン、ジメトエート、シメトリン、ジメピペレート、ダイアジノン、チオベンカルブ、テニルクロール、テルブカルブ (MBPMC)、トリフルラリン、トルクロホスメチル、ナプロパミド、ビフェノックス、ピペロホス、ピリダフェンチオン、ピリブチカルブ、ピリプロキシフェン、ピロキロン、フェニトロチオン (MEP)、フェノブカルブ (BPMC)、フェンチオン (MPP)、フェントエート (PAP)、フサライド、ブタミホス、ブプロフェジン、フルトラニル、プレチラクロール、プロピザミド、ブromoブチド、ペンシクロン、ペンディメタリン、ベンフルラリン (ベスロジン)、マラチオン (マラソン)、メタラキシル、メチダチオン (DMTP)、メチルダイムロン、メフェナセット、メプロニル、モリネート、イソフェンホスオキソン、ダイアジノンオキソン、トルクロホスメチルオキソン、フェニトロチオンオキソン、

びマラオキソンをそれぞれ 1 mg 含む。

これらの溶液は、冷凍保存する。

(8) 農薬混合標準液

それぞれの農薬標準原液の等量ずつをメスフラスコに採り、ジクロロメタンで100倍に薄めたもの

この溶液 1 ml は、シマジン (CAT)、チオベンカルブ、イソキサチオン、ダイアジノン、フェニトロチオン (MEP)、イソプロチオラン (IPT)、クロロタロニル (TPN)、プロピザミド、ジクロルボス (DDVP)、フェノブカルブ (BPMC)、クロルニトロフェン (CNP)、イプロベンホス (IBP)、EPN、イソフェンホス、クロルピリホス、ピリダフェンチオン、イプロジオン、エトリジアゾール (エクロメゾール)、キャプタン、クロロネブ、トルクロホスメチル、フルトラニル、ペンシクロン、メタラキシル、メプロニル、ジチオピル、テルブカルブ (MBPMC)、ナプロパミド、ピリブチカルブ、ブタミホス、ベンフルラリン (ベスロジン)、ペンディメタリン、メチルダイムロン、アラクロール、エディフェンホス (エジフェンホス、EDDP)、ピロキロン、フサライド、メフェナセット、プレチラクロール、イソプロカルブ (MIPC)、テニルクロール、メチダチオン (DMTP)、ブromoブチド、モリネート、アニロホス、アトラジン、ジクロベニル (DBN)、ジメトエート、 α ー、 β ーエンドスルフアン (ベンゾエピン)、エンドスルフェート (ベンゾエピンスルフェート)、エトフェンブロックス、フェンチオン (MPP)、マラソン (マラチオン)、シメトリン、ジメピペレート、フェントエート (PAP)、ブプロフェジン、エチルチオメトン、エスプロカルブ、ビフェノックス、ピペロホス、ジメタメトリン、ピリプロキシフェン、トリフルラリン、カフェンストロール、ダイアジノンオキソン、フェニトロチオンオキソン、イソフェンホスオキソン、トルクロホスメチルオキソン、MPPスルホキシ

MPPスルホキシド、MPPスルホン、MPPオキソン、MPPオキシンスルホキシド及びMPPオキシンスルホンをそれぞれ0.001mg、EPNオキソン、イソキサチオンオキソン、CNPーアミノ体、クロルピリホスオキソン、トリクロルホン（DEP）、ブタミホスオキソン、プロシミドン、プロピコナゾール及びマラオキソンをそれぞれ0.01mg含む。

この溶液は、使用の都度調製する。

2～3 （略）

4 試験操作

(1) （略）

(2) 分 析

上記(1)で得られた試験溶液の一定量をガスクロマトグラフ質量分析計に注入し、表1に示すそれぞれの農薬と内部標準物質とのフラグメントイオンのピーク高さ又はピーク面積の比を求め、下記5により作成した検量線から試験溶液中のそれぞれの農薬の濃度を求め、検水中のそれぞれの農薬の濃度を算定する。

ただし、エンドスルファン（ベンゾエピン）は、異性体である α -エンドスルファン、 β -エンドスルファン及び代謝物であるエンドスルフェート（ベンゾエピンスルフェート）のそれぞれの濃度を合計してエンドスルファンとしての濃度を、クロルニトロフェン（CNP）は、代謝物であるCNPーアミノ体の濃度を合計してクロルニトロフェンとしての濃度を算定する。また、プロピコナゾールは、2つのピークに分かれるので、それぞれのピーク高さ又はピーク面積の合計値からプロピコナゾールとしての濃度を算定する。更に、EPN、イソキサチオン、イソフェンホス、クロルピリホス、ダイアジノン、トルクロホスメチル、フェニトロチオン、ブタミホス及びマラチオン（マラソン）については、当該オキソン体の濃度を原体に換算し、その濃度を合計してそれぞれ

ド、MPPスルホン、MPPオキソン、MPPオキシンスルホキシド及びMPPオキシンスルホンをそれぞれ0.001mg、CNPーアミノ体、トリクロルホン（DEP）、プロシミドン、プロピコナゾール、イソキサチオンオキソン、EPNオキソン、クロルピリホスオキソン、ブタミホスオキソン及びマラオキソンをそれぞれ0.01mg含む。

この溶液は、使用の都度調製する。

2～3 （略）

4 試験操作

(1) （略）

(2) 分 析

上記(1)で得られた試験溶液の一定量をガスクロマトグラフ質量分析計に注入し、表1に示すそれぞれの農薬と内部標準物質とのフラグメントイオンのピーク高さ又はピーク面積の比を求め、下記(3)で求めた空試験のピーク高さ又はピーク面積の比を差し引いた後、下記5により作成した検量線から試験溶液中のそれぞれの農薬の濃度を求め、検水中のそれぞれの農薬の濃度を算定する。

ただし、エンドスルファン（ベンゾエピン）は、異性体である α -エンドスルファン、 β -エンドスルファン及び代謝物であるエンドスルフェート（ベンゾエピンスルフェート）のそれぞれの濃度を合計してエンドスルファンとしての濃度を算定する。また、プロピコナゾールは、2つのピークに分かれるので、それぞれのピーク高さ又はピーク面積の合計値からプロピコナゾールとしての濃度を算定する。更に、イソキサチオン、ダイアジノン、フェニトロチオン、EPN、イソフェンホス、クロルピリホス、トルクロホスメチル、ブタミホス及びマラソンについては、当該オキソン体の濃度を原体に換算し、その濃度を合計してそれぞれの濃度を算定する。また、フェンチオン（MPP）については、その酸化物であるMPPスルホキシド、MPPスルホン、MPPオキソン

の濃度を算定する。また、フェンチオン（MPP）については、その酸化物であるMPPスルホキシド、MPPスルホン、MPPオキソン、MPPオキシンスルホキシド及びMPPオキシンスルホンのそれぞれの濃度を原体に換算し、それらの濃度と原体濃度とを合計してフェンチオン（MPP）としての濃度を算定する。

表1 フラグメントイオン

農 薬 名	フラグメントイオン (m/z) (イオン強度順)
EPN	157、169、185
EPNオキソン	141、169、306
アトラジン	200、215、173
アニロホス	226、125、228
アラクロール	188、160、146
イソキサチオン	105、177、313
イソキサチオンオキソン	161、105、125
イソフェンホス	213、121、185
イソフェンホスオキソン	229、201、314
イソプロカルブ（MIPC）	121、136、122
イソプロチオラン（IPT）	118、189、290
イプロジオン	314、316、187
イプロベンホス（IBP）	91、204、246
エスプロカルブ	91、222、162
エディフェンホス（エジフェンホス、EDDP）	109、173、310
エトフェンプロックス	163、135、183
エトリジアゾール（エクロメゾー	211、183、213

、MPPオキシンスルホキシド及びMPPオキシンスルホンのそれぞれの濃度を原体に換算し、それらの濃度と原体濃度とを合計してフェンチオン（MPP）としての濃度を算定する。

(3) 空試験

精製水500mlを採り、以下上記(1)及び(2)と同様に操作してピーク高さ又はピーク面積の比を求める。

表1 フラグメントイオン

農 薬 名	フラグメントイオン (m/z) (イオン強度順)
<u>16</u> EPN EPNオキソン	157、169、185 141、169、306
<u>63</u> アトラジン	200、215、173
<u>62</u> アニロホス	226、125、228
<u>47</u> アラクロール	188、160、146
<u>5</u> イソキサチオン イソキサチオンオキソン	105、177、313 161、105、125
<u>22</u> イソフェンホス イソフェンホスオキソン	213、121、185 229、201、314
<u>54</u> イソプロカルブ（MIPC）	121、136、122
<u>8</u> イソプロチオラン（IPT）	118、189、290
<u>26</u> イプロジオン	314、316、187
<u>15</u> イプロベンホス（IBP）	91、204、246
<u>83</u> エスプロカルブ	91、222、162
<u>49</u> エディフェンホス（エジフェンホス、EDDP）	109、173、310
<u>70</u> エトフェンプロックス	163、135、183
<u>27</u> エトリジアゾール（エクロメゾー	211、183、213

ル)	
エンドスルファン (ベンゾエピン)	α 195、241、267 β 195、241、267
エンドスルフェート (ベンゾエピ ンスルフェート)	272、274、229
カフェンストロール	100、188、167
キャプタン	79、149、117
クロルニトロフェン (CNP)	317、319、289
CNP-アミノ体	108、289、287
クロルピリホス	197、199、314
クロルピリホスオキソン	270、242、298
クロロタロニル (TPN)	266、264、268
クロロネブ	191、193、206
ジクロベニル (DBN)	171、100、173
ジクロルボス (DDVP)	79、109、185
ジスルホトン (エチルチオメトン)	89、97、186
ジチオピル	354、306、286
シマジン (CAT)	201、186、173
ジメタメトリン	212、255、240
ジメトエート	87、125、93
シメトリン	213、170、155
ジメピペレート	119、145、91
ダイアジノン	179、137、304
ダイアジノンオキソン	137、273、288
チオベンカルブ	100、72、125
テニルクロール	127、288、141
テルブカルブ (MBPMC)	205、220、206
トリクロルホン (DEP)	109、79、185
トリフルラリン	306、264、290

ル)	
<u>69</u> エンドスルファン (ベンゾエピン)	α 195、241、267 β 195、241、267
エンドスルフェート (ベンゾエピ ンスルフェート)	272、274、229
<u>101</u> カフェンストロール	100、188、167
<u>29</u> キャプタン	79、149、117
<u>13</u> クロルニトロフェン (CNP)	317、319、289
<u>14</u> CNP-アミノ体	108、289、287
<u>23</u> クロルピリホス	197、199、314
クロルピリホスオキソン	270、242、298
<u>9</u> クロロタロニル (TPN)	266、264、268
<u>30</u> クロロネブ	191、193、206
<u>65</u> ジクロベニル (DBN)	171、100、173
<u>11</u> ジクロルボス (DDVP)	79、109、185
<u>81</u> エチルチオメトン	89、97、186
<u>37</u> ジチオピル	354、306、286
<u>2</u> シマジン (CAT)	201、186、173
<u>89</u> ジメタメトリン	212、255、240
<u>66</u> ジメトエート	87、125、93
<u>77</u> シメトリン	213、170、155
<u>78</u> ジメピペレート	119、145、91
<u>6</u> ダイアジノン	179、137、304
ダイアジノンオキソン	137、273、288
<u>3</u> チオベンカルブ	100、72、125
<u>56</u> テニルクロール	127、288、141
<u>38</u> テルブカルブ (MBPMC)	205、220、206
<u>24</u> トリクロルホン (DEP)	109、79、185
<u>100</u> トリフルラリン	306、264、290

	トルクロホスメチル	265、125、250		<u>31</u>	トルクロホスメチル	265、125、250
	トルクロホスメチルオキソン	249、109、251			トルクロホスメチルオキソン	249、109、251
	ナプロパミド	72、128、100		<u>39</u>	ナプロパミド	72、128、100
	ビフェノックス	341、310、343		<u>85</u>	ビフェノックス	341、310、343
	ピペロホス	122、140、320		<u>88</u>	ピペロホス	122、140、320
	ピリダフェンチオン	340、199、125		<u>25</u>	ピリダフェンチオン	340、199、125
	ピリブチカルブ	165、108、181		<u>40</u>	ピリブチカルブ	165、108、181
	ピリプロキシフェン	136、226、137		<u>99</u>	ピリプロキシフェン	136、226、137
	ピロキロン	173、130、144		<u>50</u>	ピロキロン	173、130、144
	フェニトロチオン (ME P)	277、260、125		<u>7</u>	フェニトロチオン (ME P)	277、260、125
	フェニトロチオンオキソン	244、109、261			フェニトロチオンオキソン	244、109、261
	フェノブカルブ (B PMC)	121、208、150		<u>12</u>	フェノブカルブ (B PMC)	121、208、150
	フェンチオン (MP P)	278、153、125		<u>71</u>	フェンチオン (MP P)	278、153、125
	MP P スルホキシド	278、125、294			MP P スルホキシド	278、125、294
	MP P スルホン	310、125、231			MP P スルホン	310、125、231
	MP P オキソン	262、109、247			MP P オキソン	262、109、247
	MP P オキシソンスルホキシド	262、278、247			MP P オキシソンスルホキシド	262、278、247
	MP P オキシソンスルホン	294、109、215			MP P オキシソンスルホン	294、109、215
	フェントエート (P A P)	274、125、 93		<u>79</u>	フェントエート (P A P)	274、125、 93
	フサライド	243、241、215		<u>51</u>	フサライド	243、241、215
	ブタミホス	286、258、200		<u>41</u>	ブタミホス	286、258、200
	ブタミホスオキソン	244、216、287			ブタミホスオキソン	244、216、287
	ブプロフェジン	105、175、106		<u>80</u>	ブプロフェジン	105、175、106
	フルトラニル	173、145、281		<u>32</u>	フルトラニル	173、145、281
	プレチラクロール	176、238、262		<u>53</u>	プレチラクロール	176、238、262
	プロシミドン	283、 96、285		<u>61</u>	プロシミドン	283、 96、285
	プロピコナゾール	259、173、261		<u>97</u>	プロピコナゾール	259、173、261
	プロピザミド	173、145、175		<u>10</u>	プロピザミド	173、145、175
	ブロモブチド	119、232、120		<u>59</u>	ブロモブチド	119、232、120
	ペンシクロン	125、180、127		<u>33</u>	ペンシクロン	125、180、127

ペンディメタリン	252、191、281
ベンフルラリン（ベスロジン）	292、264、276
マラソン（マラチオン）	127、173、93
マラオキソン	127、195、99
メタラキシル	160、206、132
メチダチオン（DMTP）	145、85、302
メチルダイムロン	107、119、91
メフェナセット	192、120、136
メプロニル	119、269、91
モリネート	126、98、188
9－ブロモアントラセン ※	256、258、176
アントラセン－d ₁₀ ※	188、160、189
クリセン－d ₁₂ ※	240、236、241

※印は内部標準物質である。

5 検量線の作成

農薬混合標準液を段階的にメスフラスコに採り、それぞれにジクロロメタンを加えて10mlとする。以下上記4(2)と同様に操作して、それぞれの農薬と内部標準物質とのフラグメントイオンのピーク高さ又はピーク面積の比を求め、それぞれの農薬の濃度との関係を求める。

別添方法5の2 固相抽出ーガスクロマトグラフー質量分析計による一斉分析法

ここで対象とする農薬は、アセタミプリド、アメトリン、インダノファン、ウニコナゾールP、エトベンザニド、オリサストロビン、カズサホス、キノクラミン（ACN）、クミルロン、クロルタールジメチル（TCTP）、クロルピリホスメチル、シアナジン、シアノホス（CYAP）、ジクロフェンチオン（ECP）、シハロホップブチル、ジフェノコナゾール、シプロコナゾール

<u>44</u>	ペンディメタリン	252、191、281
<u>43</u>	ベンフルラリン（ベスロジン）	292、264、276
<u>73</u>	マラソン（マラチオン）	127、173、93
	マラオキソン	127、195、99
<u>34</u>	メタラキシル	160、206、132
<u>57</u>	メチダチオン（DMTP）	145、85、302
<u>46</u>	メチルダイムロン	107、119、91
<u>52</u>	メフェナセット	192、120、136
<u>35</u>	メプロニル	119、269、91
<u>60</u>	モリネート	126、98、188
<u>—</u>	9－ブロモアントラセン ※	256、258、176
<u>—</u>	アントラセン－d ₁₀ ※	188、160、189
<u>—</u>	クリセン－d ₁₂ ※	240、236、241

※印は内部標準物質である。

5 検量線の作成

農薬混合標準液を段階的にメスフラスコに採り、それぞれにジクロロメタンを加えて10mlとする。以下上記4(2)と同様に操作して、それぞれの農薬と内部標準物質とのフラグメントイオンのピーク高さ又はピーク面積の比を求め、それぞれの農薬の濃度との関係を求める。

、シプロジニル、シメコナゾール、ジメチルビンホス、シンメチリン、チアクロプリド、チアメトキサム、チフルザミド、テトラクロルビンホス（CVMP）、テトラコナゾール、テブコナゾール、トリフルミゾール、パクロブトラゾール、ピラクロホス、ピラゾキシフェン、ピリミノバックメチル、ピリミホスメチル、ブタクロール、フラメトピル、プロパニル（DCPA）、プロパホス、プロボキスル（PHC）、ブロマシル、プロメトリン、ベンフレセート、ホサロン、ボスカリド、ホスチアゼート、メトミノストロビン、メトラクロール及びメトリブジンである。ただし、ジメチルビンホス及びピリミノバックメチルは、E体とZ体をそれぞれ測定する。なお、メトミノストロビンは、E体のみを対象とする。

1 試 薬

(1) 精製水

測定対象成分を含まないもの

(2) アスコルビン酸ナトリウム

(3) ジクロロメタン

測定対象成分を含まないもの

(4) アセトン

測定対象成分を含まないもの

(5) メチルアルコール

測定対象成分を含まないもの

(6) 内部標準原液

9－プロモアントラセン10mgをメスフラスコに採り、ジクロロメタンに溶かして100mlとしたもの

この溶液 1 mlは、9－プロモアントラセンを0.1mg含む。

この溶液は、冷凍保存する。

(7) 内部標準液

内部標準原液をメスフラスコに採り、ジクロロメタンで100倍に薄めたもの

この溶液 1 mlは、9－プロモアントラセンを0.001mg含む

この溶液は、使用の都度調製する。

(8) 農薬標準原液

アセタミプリド、アメトリン、インダノファン、ウニコナ
ゾールP、エトベンザニド、オリサストロビン、カズサホス
、キノクラミン（ACN）、クミルロン、クロルタルジメ
チル（TC TP）、クロルピリホスメチル、シアナジン、シ
アノホス（CYAP）、ジクロフェンチオン（ECP）、シ
ハロホップブチル、ジフェノコナゾール、シプロコナゾール
、シプロジニル、シメコナゾール、(E)ージメチルビンホス
、(Z)ージメチルビンホス、シンメチリン、チアクロプリド
、チアメトキサム、チフルザミド、テトラクロルビンホス（
CVMP）、テトラコナゾール、テブコナゾール、トリフル
ミゾール、パクロブトラゾール、ピラクロホス、ピラゾキシ
フェン、(E)ーピリミノバックメチル、(Z)ーピリミノバック
メチル、ピリミホスメチル、ブタクロール、フラメトピル
、プロパニル（DCPA）、プロパホス、プロポキスル（P
HC）、ブロマシル、プロメトリン、ベンフレセート、ホサ
ロン、ボスカリド、ホスチアゼート、メトミノストロビン、
メトラクロール及びメトリブジンのそれぞれ10mgを別々のメ
スフラスコに採り、ジクロロメタンに溶かして100mlとした
もの

これらの溶液 1 mlは、それぞれの農薬を0. 1mg含む。

これらの溶液は、冷凍保存する。

(9) 農薬混合標準液

それぞれの農薬標準原液の等量ずつをメスフラスコに採り
、ジクロロメタンで100倍に薄めたもの

この溶液 1 mlは、それぞれの農薬を0. 001mg含む。

この溶液は、使用の都度調製する。

2 器具及び装置

(1) 固相カラム

別添方法 5 の 2 (1) の例による。

(2) ガスクロマトグラフー質量分析計

ア 試料導入部

別添方法 5 の 2 (2) アの例による。

イ 分離カラム

別添方法 5 の 2 (2) イの例による。

ウ 分離カラムの温度

別添方法 5 の 2 (2) ウの例による。

エ 検出器

検査方法告示の別表第14の 2 (4) ウの例による。

オ イオン化電圧

検査方法告示の別表第14の 2 (4) エの例による。

カ キャリヤーガス

検査方法告示の別表第14の 2 (4) オの例による。

3 試料の採取及び保存

試料は、精製水及びアセトンで洗浄したガラス瓶に採取し、満水にして直ちに密栓し、速やかに試験する。速やかに試験できない場合は、冷蔵保存し、72時間以内に試験する。

なお、残留塩素が含まれている場合には、アスコルビン酸ナトリウム0.01～0.02gを加える。

4 試験操作

(1) 前処理

固相カラムにジクロロメタン 5ml、メチルアルコール 5ml 及び精製水 5mlを順次注入する。次に、検水500ml(検水に含まれるそれぞれの対象物質の濃度が表 1 に示す濃度範囲の上限値を超える場合には、同表に示す濃度範囲になるように精製水を加えて500mlに調製したもの)を毎分10～20mlの流量で固相カラムに流した後、30分間以上空気又は窒素ガスを通気して固相カラムを乾燥させる。次いで、固相カラムの上端からジクロロメタン 5mlを緩やかに流し、試験管に採る。試験管の溶出液に窒素ガスを緩やかに吹き付けて0.9ml以下に濃

縮し、これに内部標準液0.1mlを加えた後、ジクロロメタンを加えて1 mlとし、これを試験溶液とする。

(2) 分 析

上記(1)で得られた試験溶液の一定量をガスクロマトグラフー質量分析計に注入し、表1に示すそれぞれの農薬と内部標準物質とのフラグメントイオンのピーク高さ又はピーク面積の比を求め、下記5により作成した検量線から試験溶液中のそれぞれの農薬の濃度を求め、検水中のそれぞれの農薬の濃度を算定する。

ただし、ジフェノコナゾール、シプロコナゾール及びホスチアゼートは、それぞれ2つのピークに分かれるので、それぞれのピーク高さ又はピーク面積の合計値からそれぞれの農薬としての濃度を算定する。また、ジメチルビンホス及びピリミノバックメチルは、E体とZ体それぞれの濃度を合計してそれぞれの農薬としての濃度を算定する。

表1 各農薬の濃度範囲及びフラグメントイオン

農 薬 名	濃度範囲(mg/L)	フラグメントイオン(m/z) (イオン強度順)
<u>アセタミプリド</u>	<u>0.002～0.06</u>	<u>152、126</u>
<u>アメトリン</u>	<u>0.002～0.06</u>	<u>227、212</u>
<u>インダノフェン</u>	<u>0.00006～0.006</u>	<u>174、159</u>
<u>ユニコナゾールP</u>	<u>0.0002～0.02</u>	<u>234、236</u>
<u>エトベンザニド</u>	<u>0.0006～0.02</u>	<u>179、149</u>
<u>オリサストロビン</u>	<u>0.0006～0.02</u>	<u>116、205</u>
<u>カズサホス</u>	<u>0.000006～ 0.0006</u>	<u>159、158</u>
<u>キノクラミン(ACN)</u>	<u>0.00002～0.002</u>	<u>207、172</u>
<u>クミルロン</u>	<u>0.0002～0.02</u>	<u>267、120</u>
<u>クロルタルジメチル(TCTP)</u>	<u>0.000006～ 0.0006</u>	<u>301、299</u>

<u>クロルピリホスメチル</u>	<u>0.0002～0.02</u>	<u>286、288</u>
<u>シアナジン</u>	<u>0.00002～0.002</u>	<u>225、212</u>
<u>シアノホス（CYAP）</u>	<u>0.00002～0.002</u>	<u>243、109</u>
<u>ジクロフェンチオン（ECP）</u>	<u>0.00006～0.006</u>	<u>279、223</u>
<u>シハロホップブチル</u>	<u>0.00006～0.006</u>	<u>256、229</u>
<u>ジフェノコナゾール</u>	<u>0.0002～0.02</u>	<u>323、265</u>
<u>シプロコナゾール</u>	<u>0.0002～0.02</u>	<u>222、139</u>
<u>シプロジニル</u>	<u>0.0006～0.02</u>	<u>224、225</u>
<u>シメコナゾール</u>	<u>0.0002～0.02</u>	<u>121、73</u>
<u>ジメチルビンホス</u>	<u>0.00006～0.006</u>	<u>295、297</u>
<u>シンメチリン</u>	<u>0.0006～0.02</u>	<u>105、123</u>
<u>チアクロプリド</u>	<u>0.0002～0.02</u>	<u>126、101</u>
<u>チアメトキサム</u>	<u>0.0002～0.02</u>	<u>212、182</u>
<u>チフルザミド</u>	<u>0.0002～0.02</u>	<u>194、449</u>
<u>テトラクロルビンホス（CVMP）</u>	<u>0.00006～0.006</u>	<u>329、331</u>
<u>テトラコナゾール</u>	<u>0.00006～0.006</u>	<u>336、338</u>
<u>テブコナゾール</u>	<u>0.0006～0.02</u>	<u>250、125</u>
<u>トリフルミゾール</u>	<u>0.0002～0.02</u>	<u>278、206</u>
<u>パクロブトラゾール</u>	<u>0.0002～0.02</u>	<u>236、125</u>
<u>ピラクロホス</u>	<u>0.00002～0.002</u>	<u>360、194</u>
<u>ピラゾキシフェン</u>	<u>0.00002～ 0.0006</u>	<u>105、91</u>
<u>ピリミノバックメチル</u>	<u>0.0002～0.02</u>	<u>302、256</u>
<u>ピリミホスメチル</u>	<u>0.0006～0.02</u>	<u>290、276</u>
<u>ブタクロール</u>	<u>0.0002～0.02</u>	<u>176、160</u>
<u>フラメトピル</u>	<u>0.0002～0.02</u>	<u>157、298</u>
<u>プロパニル（DCPA）</u>	<u>0.0002～0.02</u>	<u>161、163</u>
<u>プロパホス</u>	<u>0.00006～0.006</u>	<u>220、304</u>

<u>プロポキスル（PHC）</u>	<u>0.002～0.06</u>	<u>110、152</u>
<u>ブロマシル</u>	<u>0.0002～0.02</u>	<u>205、207</u>
<u>プロメトリン</u>	<u>0.0006～0.02</u>	<u>241、184</u>
<u>ベンフレセート</u>	<u>0.0006～0.02</u>	<u>163、256</u>
<u>ホサロン</u>	<u>0.0006～0.02</u>	<u>182、367</u>
<u>ボスカリド</u>	<u>0.0006～0.02</u>	<u>140、342</u>
<u>ホスチアゼート</u>	<u>0.00002～0.002</u>	<u>195、283</u>
<u>メトミノストロビン</u>	<u>0.0002～0.02</u>	<u>191、196</u>
<u>メトラクロール</u>	<u>0.002～0.06</u>	<u>162、238</u>
<u>メトリブジン</u>	<u>0.0002～0.02</u>	<u>198、144</u>
<u>9－ブロモアントラセン</u>		<u>256、258、176</u>
※		

※印は内部標準物質である。

5 検量線の作成

農薬混合標準液を段階的にメスフラスコに採り、それぞれにジクロロメタンを加えて10mlとする。以下上記4(2)と同様に操作して、それぞれの農薬と内部標準物質とのフラグメントイオンのピーク高さ又はピーク面積の比を求め、それぞれの農薬の濃度との関係を求める。

別添方法6 固相抽出－誘導体化－ガスクロマトグラフ－質量分析計による一斉分析法

ここで対象とする農薬は、2，4－D（2，4－PA）、トリクロピル、ベンタゾン及びメコプロップ（MCP P）である。

1 試 薬

(1)～(10) (略)

(11) 農薬標準原液

2，4－D（2，4－PA）、トリクロピル、ベンタゾン及びメコプロップ（MCP P）のそれぞれ100mgを別々のメ

別添方法6 固相抽出－誘導体化－ガスクロマトグラフ－質量分析計による一斉分析法

ここで対象とする農薬は、ベンタゾン、2，4－ジクロロフェノキシ酢酸（2，4－D）、トリクロピル及びメコプロップ（MCP P）である。

1 試 薬

(1)～(10) (略)

(11) 農薬標準原液

ベンタゾン、2，4－ジクロロフェノキシ酢酸（2，4－D）、トリクロピル及びメコプロップ（MCP P）のそれぞ

スフラスコに採り、それぞれをアセトンに溶かして100mlとしたもの

これらの溶液 1 mlは、それぞれの農薬を 1 mg含む。

これらの溶液は、冷凍保存する。

(12) (略)

2～3 (略)

4 試験操作

(1) (略)

(2) 分 析

上記(1)で得られた試験溶液の一定量をガスクロマトグラフー質量分析計に注入し、表 1 に示すそれぞれの農薬と内部標準物質とのフラグメントイオンのピーク高さ又はピーク面積の比を求め、下記 5 により作成した検量線から試験溶液中のそれぞれの農薬の濃度を求め、検水中のそれぞれの農薬の濃度を算定する。

表 1 フラグメントイオン

農 薬 名	フラグメントイオン(m/z) (イオン強度順)
2, 4-D (2, 4-PA)	199, 234, 175
トリクロピル	210, 212, 271
ベンタゾン	212, 254, 105
メコプロップ (MCPP)	169, 228, 143
9-ブロモアントラセン ※	256, 258, 176
アントラセン-d ₁₀ ※	188, 160, 189
クリセン-d ₁₂ ※	240, 236, 241

※印は内部標準物質である。

れ100mgを別々のメスフラスコに採り、それぞれをアセトンに溶かして100mlとしたもの

これらの溶液 1 mlは、それぞれの農薬を 1 mg含む。

これらの溶液は、冷凍保存する。

(12) (略)

2～3 (略)

4 試験操作

(1) (略)

(2) 分 析

上記(1)で得られた試験溶液の一定量をガスクロマトグラフー質量分析計に注入し、表 1 に示すそれぞれの農薬と内部標準物質とのフラグメントイオンのピーク高さ又はピーク面積の比を求め、下記(3)で求めた空試験のピーク高さ又はピーク面積の比を差し引いた後、下記 5 により作成した検量線から試験溶液中のそれぞれの農薬の濃度を求め、検水中のそれぞれの農薬の濃度を算定する。

(3) 空試験

精製水500mlを採り、以下上記(1)及び(2)と同様に操作してピーク高さ又はピーク面積の比を求める。

表 1 フラグメントイオン

農 薬 名	フラグメントイオン(m/z) (イオン強度順)
<u>19</u> <u>2, 4-ジクロロフェノキシ酢酸 (2, 4-D) S</u>	199, 234, 175
<u>20</u> トリクロピル	210, 212, 271
<u>17</u> ベンタゾン	212, 254, 105
<u>45</u> メコプロップ (MCPP)	169, 228, 143
<u>二</u> 9-ブロモアントラセン ※	256, 258, 176
<u>二</u> アントラセン-d ₁₀ ※	188, 160, 189
<u>二</u> クリセン-d ₁₂ ※	240, 236, 241

※印は内部標準物質である。

5 (略)

別添方法 7～15 (略)

別添方法16 固相抽出—高速液体クロマトグラフ—ポストカラム法

ここで対象とする農薬は、イミノクタジンである。

1～3 (略)

4 試験操作

(1) 前処理

固相カラムにメチルアルコール 5 ml 及び精製水 5 ml を順次緩やかに注入する。次に、検水 500 ml (検水に含まれるイミノクタジンの濃度が 0.4 mg/L を超える場合には、 $0.004 \sim 0.4 \text{ mg/L}$ となるように精製水を加えて 500 ml に調製したもの) を毎分 10～20 ml の流量で固相カラムに流した後、30 分以上通気又は窒素ガスを吹き付けて固相カラムを乾燥させる。次いで、アンモニア・メチルアルコール溶液 3 ml を緩やかに流した後、30 分以上通気又は窒素ガスを吹き付けて固相カラムを乾燥させる。次に、固相カラムに酢酸・メチルアルコール溶液 3 ml を緩やかに流して試験管に採る。試験管の溶出液に窒素ガスを緩やかに吹き付けて濃縮乾固した後、過塩素酸ナトリウム・アセトニトリル混液で溶かして 1 ml とし、これを試験溶液とする。

(2) 分 析

上記 (1) で得られた試験溶液の一定量を高速液体クロマトグラフに注入し、蛍光検出器で測定し、イミノクタジンの保持時間に相当する位置のピーク高さ又はピーク面積を求め、下記 5 により作成した検量線から試験溶液中のイミノクタジンの濃度を求め、検水中のイミノクタジンの濃度を算定する。

5 検量線の作成

5 (略)

別添方法 7～15 (略)

別添方法16 固相抽出—高速液体クロマトグラフ—ポストカラム法

ここで対象とする農薬は、イミノクタジン酢酸塩である。

1～3 (略)

4 試験操作

(1) 前処理

固相カラムにメチルアルコール 5 ml 及び精製水 5 ml を順次緩やかに注入する。次に、検水 500 ml (検水に含まれるイミノクタジン酢酸塩の濃度が 0.5 mg/L を超える場合には、 $0.005 \sim 0.5 \text{ mg/L}$ となるように精製水を加えて 500 ml に調製したもの) を毎分 10～20 ml の流量で固相カラムに流した後、30 分以上通気又は窒素ガスを吹き付けて固相カラムを乾燥させる。次いで、アンモニア・メチルアルコール溶液 3 ml を緩やかに流した後、30 分以上通気又は窒素ガスを吹き付けて固相カラムを乾燥させる。次に、固相カラムに酢酸・メチルアルコール溶液 3 ml を緩やかに流して試験管に採る。試験管の溶出液に窒素ガスを緩やかに吹き付けて濃縮乾固した後、過塩素酸ナトリウム・アセトニトリル混液で溶かして 1 ml とし、これを試験溶液とする。

(2) 分 析

上記 (1) で得られた試験溶液の一定量を高速液体クロマトグラフに注入し、蛍光検出器で測定し、イミノクタジン酢酸塩の保持時間に相当する位置のピーク高さ又はピーク面積を求め、下記 5 により作成した検量線から試験溶液中のイミノクタジン酢酸塩の濃度を求め、検水中のイミノクタジン酢酸塩の濃度を算定する。

5 検量線の作成

イミノクタジン酢酸塩標準液を段階的にメスフラスコに採り、それぞれに過塩素酸ナトリウム・アセトニトリル混液を加えて100mlとする。以下上記4(2)と同様に操作して、イミノクタジンの濃度とピーク高さ又はピーク面積との関係を求める。

別添方法17 溶媒抽出—高速液体クロマトグラフ—ポストカラム法

ここで対象とする農薬は、イミノクタジンである。

1～3 (略)

4 試験操作

(1) 前処理

検水400ml(検水に含まれるイミノクタジンの濃度が0.4mg/Lを超える場合には、0.004～0.4mg/Lとなるように精製水を加えて400mlに調製したもの)を採り、トリエチルアミン0.15ml、水酸化ナトリウム5g及びブチルアルコール・ヘキサン混液200mlを加え、振盪機を用いて5分間振り混ぜ、静置後、有機溶媒層を分取する。残った溶液にブチルアルコール・ヘキサン混液200mlを加えて同様の操作を繰り返し、有機溶媒層を先の有機溶媒層に合わせる。有機溶媒層に精製水30ml及び硫酸(1mol/L)2mlを加え、振盪機を用いて5分間振り混ぜ、静置後、水層を分取する。残った溶液に精製水30ml及び硫酸(1mol/L)2mlを加えて同様の操作を繰り返し、水層を先の水層に合わせる。水層を減圧濃縮器に入れ、40℃以下の温度で2mlに濃縮する。この濃縮液にリン酸緩衝液5mlを加え、更に水酸化ナトリウム溶液(0.1mol/L)を加えてpH値を6に調整する。あらかじめメチルアルコール5ml及び精製水5mlで順次洗浄したシリカゲルカラムにpH値を調整した濃縮液を流し、次いでリン酸緩衝液5mlを流し、流出液を捨てる。シリカゲルカラムに塩酸・メチルアルコール溶液10mlを流し、溶出液を採る。溶出液を減圧濃縮器に入れ、40℃以下の温度で濃縮する。濃縮残留物を過塩素酸ナトリウ

イミノクタジン酢酸塩標準液を段階的にメスフラスコに採り、それぞれに過塩素酸ナトリウム・アセトニトリル混液を加えて100mlとする。以下上記4(2)と同様に操作して、イミノクタジン酢酸塩の濃度とピーク高さ又はピーク面積との関係を求める。

別添方法17 溶媒抽出—高速液体クロマトグラフ—ポストカラム法

ここで対象とする農薬は、イミノクタジン酢酸塩である。

1～3 (略)

4 試験操作

(1) 前処理

検水400ml(検水に含まれるイミノクタジン酢酸塩の濃度が0.5mg/Lを超える場合には、0.005～0.5mg/Lとなるように精製水を加えて400mlに調製したもの)を採り、トリエチルアミン0.15ml、水酸化ナトリウム5g及びブチルアルコール・ヘキサン混液200mlを加え、振盪機を用いて5分間振り混ぜ、静置後、有機溶媒層を分取する。残った溶液にブチルアルコール・ヘキサン混液200mlを加えて同様の操作を繰り返し、有機溶媒層を先の有機溶媒層に合わせる。有機溶媒層に精製水30ml及び硫酸(1mol/L)2mlを加え、振盪機を用いて5分間振り混ぜ、静置後、水層を分取する。残った溶液に精製水30ml及び硫酸(1mol/L)2mlを加えて同様の操作を繰り返し、水層を先の水層に合わせる。水層を減圧濃縮器に入れ、40℃以下の温度で2mlに濃縮する。この濃縮液にリン酸緩衝液5mlを加え、更に水酸化ナトリウム溶液(0.1mol/L)を加えてpH値を6に調整する。あらかじめメチルアルコール5ml及び精製水5mlで順次洗浄したシリカゲルカラムにpH値を調整した濃縮液を流し、次いでリン酸緩衝液5mlを流し、流出液を捨てる。シリカゲルカラムに塩酸・メチルアルコール溶液10mlを流し、溶出液を採る。溶出液を減圧濃縮器に入れ、40℃以下の温度で濃縮する。濃縮残留物を過塩素酸ナトリウ

ム・アセトニトリル混液で溶かして2mlとし、これを試験溶液とする。

(2) 分 析

上記(1)で得られた試験溶液の一定量を高速液体クロマトグラフに注入し、蛍光検出器で測定し、イミノクタジンの保持時間に相当するピーク高さ又はピーク面積を求め、下記5により作成した検量線から試験溶液中のイミノクタジンの濃度を求め、検水中のイミノクタジンの濃度を算定する。

5 検量線の作成

イミノクタジン酢酸塩標準液を段階的にメスフラスコに採り、それぞれに過塩素酸ナトリウム・アセトニトリル混液を加えて100mlとする。以下上記4(2)と同様に操作して、イミノクタジンの濃度とピーク高さ又はピーク面積との関係を求める。

別添方法18 固相抽出—液体クロマトグラフ—質量分析計による一斉分析法

ここでポジティブモードで対象とする農薬は、アシュラム、アゾキシストロビン、イプロジオン、オキシシン銅（有機銅）、カルバリル（NAC）、カルプロパミド、カルボフラン、ジウロン（DCMU）、シデュロン、ダイムロン、チウラム、チオジカルブ、トリシクラゾール、ハロスルフロンメチル、フェンチオン（MPP）、フラザスルフロン、プロベナゾール、ベノミル、ベンスリド（SAP）、ベンスルフロンメチル、ベントゾン及びメソミルである。ただし、ベノミルはメチル—2—ベンツイミダゾールカルバメート（MBC）に変化することから、メチル—2—ベンツイミダゾールカルバメート（MBC）として測定する。また、フェンチオン（MPP）については、その酸化物であるMPPスルホキシド、MPPスルホン、MPPオキシソン、MPPオキシソンスルホキシド及びMPPオキシソンスルホンをそれぞれ測定する。

ここでネガティブモードで対象とする農薬は、2，4—D（2

ム・アセトニトリル混液で溶かして2mlとし、これを試験溶液とする。

(2) 分 析

上記(1)で得られた試験溶液の一定量を高速液体クロマトグラフに注入し、蛍光検出器で測定し、イミノクタジン酢酸塩の保持時間に相当するピーク高さ又はピーク面積を求め、下記5により作成した検量線から試験溶液中のイミノクタジン酢酸塩の濃度を求め、検水中のイミノクタジン酢酸塩の濃度を算定する。

5 検量線の作成

イミノクタジン酢酸塩標準液を段階的にメスフラスコに採り、それぞれに過塩素酸ナトリウム・アセトニトリル混液を加えて100mlとする。以下上記4(2)と同様に操作して、イミノクタジン酢酸塩の濃度とピーク高さ又はピーク面積との関係を求める。

別添方法18 固相抽出—液体クロマトグラフ—質量分析計による一斉分析法

ここでポジティブモードで対象とする農薬は、チウラム、ベントゾン、カルボフラン（カルボスルファン代謝物）、イプロジオン、オキシシン銅、アシュラム、ベンスリド（SAP）、カルバリル（NAC）、カルプロパミド、ジウロン（DCMU）、フェンチオン（MPP）、メソミル、ベノミル、プロベナゾール、ダイムロン、ベンスルフロンメチル、トリシクラゾール、アゾキシストロビン、ハロスルフロンメチル、フラザスルフロン、チオジカルブ及びシデュロンである。ただし、ベノミルはメチル—2—ベンツイミダゾールカルバメート（MBC）に変化することから、メチル—2—ベンツイミダゾールカルバメート（MBC）として測定する。また、フェンチオン（MPP）については、その酸化物であるMPPスルホキシド、MPPスルホン、MPPオキシソン、MPPオキシソンスルホキシド及びMPPオキシソンスルホンをそれぞれ測定する。

ここでネガティブモードで対象とする農薬は、ベントゾン、2

、4-P A）、アシュラム、カルプロパミド、ジウロン（DCMU）、シデュロン、ダイムロン、トリクロピル、ハロスルフロンメチル、フィプロニル、フラザスルフロン、ベンスリド（SAP）、ベンスルフロンメチル、ベンタゾン及びメコプロップ（MCPP）である。

1 試 薬

(1)～(7) (略)

(8) 農薬標準原液

2, 4-D（2, 4-P A）、アシュラム、アゾキシストロビン、イプロジオン、カルバリル（NAC）、カルプロパミド、カルボフラン、ジウロン（DCMU）、シデュロン、ダイムロン、チウラム、チオジカルブ、トリクロピル、トリシクラゾール、ハロスルフロンメチル、フィプロニル、フェンチオン（MPP）、フラザスルフロン、プロベナゾール、ベンスリド（SAP）、ベンスルフロンメチル、ベンタゾン、メコプロップ（MCPP）、メソミル、MPPスルホキシド、MPPスルホン、MPPオキソン、MPPオキシンスルホキシド及びMPPオキシンスルホンのそれぞれ100mgを別々のメスフラスコに採り、それぞれをアセトニトリルに溶かして100mlとしたもの

これらの溶液 1 mlは、それぞれの農薬を 1 mg含む。

これらの溶液は、冷凍保存する。

(9) (略)

(10) オキシシン銅（有機銅）標準原液

オキシシン銅（有機銅）100mgをメスフラスコに採り、少量の塩酸で溶かした後、アセトニトリルを加えて100mlとしたもの

この溶液 1 mlは、オキシシン銅（有機銅） 1 mgを含む。

この溶液は、冷凍保存する。

(11) 農薬混合標準液

、4-ジクロロフェノキシ酢酸（2, 4-D）、トリクロピル、アシュラム、ベンスリド（SAP）、メコプロップ（MCPP）、カルプロパミド、ジウロン（DCMU）、ダイムロン、ベンスルフロンメチル、ハロスルフロンメチル、フラザスルフロン、シデュロン及びフィプロニルである。

1 試 薬

(1)～(7) (略)

(8) 農薬標準原液

チウラム、ベンタゾン、カルボフラン（カルボスルファン代謝物）、2, 4-ジクロロフェノキシ酢酸（2, 4-D）、トリクロピル、イプロジオン、アシュラム、ベンスリド（SAP）、メコプロップ（MCPP）、カルバリル（NAC）、カルプロパミド、ジウロン（DCMU）、フェンチオン（MPP）、メソミル、プロベナゾール、ダイムロン、ベンスルフロンメチル、トリシクラゾール、アゾキシストロビン、ハロスルフロンメチル、フラザスルフロン、チオジカルブ、シデュロン、フィプロニル、MPPスルホキシド、MPPスルホン、MPPオキソン、MPPオキシンスルホキシド及びMPPオキシンスルホンのそれぞれ100mgを別々のメスフラスコに採り、それぞれをアセトニトリルに溶かして100mlとしたもの

これらの溶液 1 mlは、それぞれの農薬を 1 mg含む。

これらの溶液は、冷凍保存する。

(9) (略)

(10) オキシシン銅標準原液

オキシシン銅100mgをメスフラスコに採り、少量の塩酸で溶かした後、アセトニトリルを加えて100mlとしたもの

この溶液 1 mlは、オキシシン銅 1 mgを含む。

この溶液は、冷凍保存する。

(11) 農薬混合標準液

2, 4-D (2, 4-PA)、アシュラム、アゾキシストロビン、イプロジオン、カルバリル (NAC)、カルプロパミド、カルボフラン、ジウロン (DCMU)、シデュロン、ダイムロン、チウラム、チオジカルブ、トリクロピル、トリシクラゾール、ハロスルフロンメチル、フィプロニル、フェンチオン (MPP)、フラザスルフロン、プロベナゾール、ベンスリド (SAP)、ベンスルフロンメチル、ベントゾン、メコプロップ (MCP P)、メソミル、MPP スルホキシド、MPP スルホン、MPP オキソン、MPP オキシンスルホキシド及びMPP オキシンスルホンのそれぞれの農薬標準原液 5ml ずつとMBC 標準原液50ml をメスフラスコに採り、アセトニトリルを加えて250ml としたもの

この溶液 1 ml は、それぞれの農薬を 0.02mg 含む。

この溶液は、使用の都度調製する。

(12) オキシシン銅 (有機銅) 標準液

オキシシン銅 (有機銅) 標準原液をアセトニトリルで 50 倍に薄めたもの

この溶液 1 ml は、オキシシン銅 (有機銅) 0.02mg を含む。

この溶液は、使用の都度調製する。

2～3 (略)

4 試験操作

(1)～(2) (略)

表 1 ポジティブモードのモニターイオン及び濃度範囲

農 薬 名	濃度範囲 (mg/L)	モニターイオン (m/z)
アシュラム	0.0001～0.01	231
アゾキシストロビン	0.00002～0.002	372
イプロジオン	0.0002～0.02	330
オキシシン銅 <u>(有機銅)</u>	0.00008～0.008	146

チウラム、ベントゾン、カルボフラン (カルボスルファン代謝物)、2, 4-ジクロロフェノキシ酢酸 (2, 4-D)、トリクロピル、イプロジオン、アシュラム、ベンスリド (SAP)、メコプロップ (MCP P)、カルバリル (NAC)、カルプロパミド、ジウロン (DCMU)、フェンチオン (MPP)、メソミル、プロベナゾール、ダイムロン、ベンスルフロンメチル、トリシクラゾール、アゾキシストロビン、ハロスルフロンメチル、フラザスルフロン、チオジカルブ、シデュロン、フィプロニル、MPP スルホキシド、MPP スルホン、MPP オキソン、MPP オキシンスルホキシド及びMPP オキシンスルホンのそれぞれの農薬標準原液 5ml ずつとMBC 標準原液50ml をメスフラスコに採り、アセトニトリルを加えて250ml としたもの

この溶液 1 ml は、それぞれの農薬を 0.02mg 含む。

この溶液は、使用の都度調製する。

(12) オキシシン銅標準液

オキシシン銅標準原液をアセトニトリルで 50 倍に薄めたもの

この溶液 1 ml は、オキシシン銅 0.02mg を含む。

この溶液は、使用の都度調製する。

2～3 (略)

4 試験操作

(1)～(2) (略)

表 1 ポジティブモードのモニターイオン及び濃度範囲

	農 薬 名	濃度範囲 (mg/L)	モニターイオン (m/z)
<u>36</u>	アシュラム	0.0001～0.01	231
<u>90</u>	アゾキシストロビン	0.00002～0.002	372
<u>26</u>	イプロジオン	0.0002～0.02	330
<u>28</u>	オキシシン銅	0.00008～0.008	146

カルバリル <u>(NAC)</u>	0.00002～0.002	202
カルプロパミド	0.00003～0.003	334、336
カルボフラン	0.000004～0.0004	222
ジウロン <u>(DCMU)</u>	0.0001～0.01	233
シデュロン	0.00002～0.002	233
ダイムロン	0.00005～0.005	269
チウラム	0.0002～0.02	241
チオジカルブ	0.00005～0.005	355
トリシクラゾール	0.000003～0.0003	190
ハロスルフロンメチル	0.00005～0.005	435
フェンチオン (MP P)	0.00002～0.002	279
MP P スルホキシド	0.00000004～0.00001	295
MP P スルホン	0.0000004～0.00004	311
MP P オキソン	0.0000001～0.00002	263
MP P オキシソンスルホキシド	0.0000004～0.00004	279
MP P オキシソンスルホン	0.0000002～0.00004	295
フラザスルフロン	0.000002～0.0002	408
プロベナゾール	0.0002～0.02	224
メチルー2ーベンツイミダゾールカルバメート (MB C) ※	0.00002～0.002	192
ベンスリド <u>(SAP)</u>	0.00003～0.003	356
ベンスルフロンメチル	0.00001～0.001	411
ベンタゾン	0.00005～0.005	241
メソミル	0.0002～0.02	163

※印はベノミルの代謝物である。

注) ここに示すモニターイオンは一例である。

表2 ネガティブモードのモニターイオン及び濃度範囲

<u>48</u>	カルバリル	0.00002～0.002	202
<u>58</u>	カルプロパミド	0.00003～0.003	334、336
<u>18</u>	カルボフラン	0.000004～0.0004	222
<u>68</u>	ジウロン	0.0001～0.01	233
<u>98</u>	シデュロン	0.00002～0.002	233
<u>84</u>	ダイムロン	0.00005～0.005	269
<u>1</u>	チウラム	0.0002～0.02	241
<u>96</u>	チオジカルブ	0.00005～0.005	355
<u>87</u>	トリシクラゾール	0.000003～0.0003	190
<u>94</u>	ハロスルフロンメチル	0.00005～0.005	435
<u>71</u>	フェンチオン (MP P)	0.00002～0.002	279
	MP P スルホキシド	0.00000004～0.00001	295
	MP P スルホン	0.0000004～0.00004	311
	MP P オキソン	0.0000001～0.00002	263
	MP P オキシソンスルホキシド	0.0000004～0.00004	279
	MP P オキシソンスルホン	0.0000002～0.00004	295
<u>95</u>	フラザスルフロン	0.000002～0.0002	408
<u>82</u>	プロベナゾール	0.0002～0.02	224
<u>75</u>	メチルー2ーベンツイミダゾールカルバメート (MB C) ※	0.00002～0.002	192
<u>42</u>	ベンスリド	0.00003～0.003	356
<u>86</u>	ベンスルフロンメチル	0.00001～0.001	411
<u>17</u>	ベンタゾン	0.00005～0.005	241
<u>74</u>	メソミル	0.0002～0.02	163

※印はベノミルの代謝物である。

注) ここに示すモニターイオンは一例である。

表2 ネガティブモードのモニターイオン及び濃度範囲

農 薬 名	濃度範囲 (mg/L)	モニターイオン (m/z)
2, 4-D (2, 4-PA)	0.00005～0.005	161、219
アシュラム	0.00001～0.001	229
カルプロパミド	0.00005～0.005	334
ジウロン (DCMU)	0.0001～0.01	231
シデュロン	0.00002～0.002	277
ダイムロン	0.00005～0.005	267
トリクロピル	0.00002～0.002	196
ハロスルフロンメチル	0.00001～0.001	433
フィプロニル	0.000005～0.0005	435、437
フラザスルフロン	0.000002～0.0002	406
ベンスリド (SAP)	0.00001～0.001	213
ベンスルフロンメチル	0.00001～0.001	409
ベンタゾン	0.000002～0.0002	239
メコプロップ (MCP P)	0.00002～0.002	213

注) ここに示すモニターイオンは一例である。

5 検量線の作成

農薬混合標準液を段階的にメスフラスコに採り、それぞれに精製水を加えて10mlとする。以下上記4(2)と同様に操作して、それぞれの農薬のモニターイオンのピーク高さ又はピーク面積を求め、それぞれの農薬の濃度との関係を求める。

別に、オキシシン銅 (有機銅) 標準液を段階的にメスフラスコに採り、それぞれに精製水を加えて10mlとする。以下上記4(2)と同様に操作して、オキシシン銅 (有機銅) のモニターイオンのピーク高さ又はピーク面積を求め、オキシシン銅 (有機銅) の濃度との関係を求める。

	農 薬 名	濃度範囲 (mg/L)	モニターイオン (m/z)
19	2, 4-D	0.00005～0.005	161、219
36	アシュラム	0.00001～0.001	229
58	カルプロパミド	0.00005～0.005	334
68	ジウロン	0.0001～0.01	231
98	シデュロン	0.00002～0.002	277
84	ダイムロン	0.00005～0.005	267
20	トリクロピル	0.00002～0.002	196
94	ハロスルフロンメチル	0.00001～0.001	433
102	フィプロニル	0.000005～0.0005	435、437
95	フラザスルフロン	0.000002～0.0002	406
42	ベンスリド	0.00001～0.001	213
86	ベンスルフロンメチル	0.00001～0.001	409
17	ベンタゾン	0.000002～0.0002	239
45	メコプロップ	0.00002～0.002	213

注) ここに示すモニターイオンは一例である。

5 検量線の作成

農薬混合標準液を段階的にメスフラスコに採り、それぞれに精製水を加えて10mlとする。以下上記4(2)と同様に操作して、それぞれの農薬のモニターイオンのピーク高さ又はピーク面積を求め、それぞれの農薬の濃度との関係を求める。

別に、オキシシン銅標準液を段階的にメスフラスコに採り、それぞれに精製水を加えて10mlとする。以下上記4(2)と同様に操作して、オキシシン銅のモニターイオンのピーク高さ又はピーク面積を求め、オキシシン銅の濃度との関係を求める。

別添方法19 固相抽出—液体クロマトグラフ—質量分析法
(略)

1～3 (略)

4 試験操作

(1) (略)

(2) 分 析

上記(1)で得られた試験溶液の一定量を液体クロマトグラフ—質量分析計に注入し、表1に示すそれぞれの農薬のモニターイオンのピーク高さ又はピーク面積を求め、下記5により作成した検量線から試験溶液中のそれぞれの農薬の濃度を求め、検水中のそれぞれの農薬の濃度を算定する。

5 (略)

別添方法20 液体クロマトグラフ—質量分析計による一斉分析法

ここでポジティブモードで対象とする農薬は、アシベンゾラル Sメチル、アセタミプリド、アセフェート、アミトラズ、アメトリン、イミダクロプリド、インダノファン、エトキシスルフロン、エトベンザニド、オキサジアルギル、オキサジクロメホン、オキサミル、オキシシン銅（有機銅）、キザロホップエチル、クミルロン、クロチアニジン、クロマフェノジド、クロメプロップ、シアナジン、ジクロメジン、シノスルフロン、ジノテフラン、ジフェノコナゾール、シプロコナゾール、シプロジニル、シメコナゾール、シラフルオフェン、チアクロプリド、チアメトキサム、テトラクロルビンホス（CVMP）、テトラコナゾール、テブコナゾール、テブフェノジド、トリネキサパックエチル、トリフルミ

別添方法19 固相抽出—液体クロマトグラフ—質量分析法
(略)

1～3 (略)

4 試験操作

(1) (略)

(2) 分 析

上記(1)で得られた試験溶液の一定量を液体クロマトグラフ—質量分析計に注入し、表1に示すそれぞれの農薬のモニターイオンのピーク高さ又はピーク面積を求め、下記(3)で求めた空試験のピーク高さ又はピーク面積を差し引いた後、下記5により作成した検量線から試験溶液中のそれぞれの農薬の濃度を求め、検水中のそれぞれの農薬の濃度を算定する。

。
(3) 空試験

精製水500mlを採り、以下上記(1)及び(2)と同様に操作してそれぞれの農薬のモニターイオンのピーク高さ又はピーク面積を求める。

5 (略)

別添方法20 液体クロマトグラフ—質量分析計による一斉分析法

ここでポジティブモードで対象とする農薬は、アセフェート及びオキシシン銅である。

ゾール、ナプロアニリド、ニテンピラム、ピメトロジン、ピラゾスルフロンエチル、ピラゾリネート（ピラゾレート）、ピリミノバックメチル、ピリミホスメチル、フェントラザミド、フラメトピル、フルアジホップ、ブロマシル、プロメトリン、ベンゾビシクロン、ベンゾフェナップ、ベンダイオカルブ、ペントキサゾン、ホキシム、ボスカリド、メトミノストロビン、メトリブジン、モノクロトホス及びリニューロンである。

ここでネガティブモードで対象とする農薬は、2，2-DPA（ダラポン）、MCPA、イナベンフィド、ジクロルプロップ、ジフルベンズロン、チアジニル、チフルザミド、フルアジナム、フルスルファミド、プロパニル（DCPA）及びホセチルである。

ただし、ピリミノバックメチルは、E体とZ体をそれぞれ測定する。なお、メトミノストロビンは、E体のみを対象とする。

1 試 薬

(1) 精製水

測定対象成分を含まないもの

(2) アスコルビン酸ナトリウム

(3) アセトニトリル

測定対象成分を含まないもの

(4) メチルアルコール

測定対象成分を含まないもの

(5) ぎ酸(0.1～0.2v/v%)

(6) 酢酸(0.15v/v%)

(7) 酢酸アンモニウム

(8) 農薬標準原液

MCPA、アシベンゾラルSメチル、アセタミプリド、アセフェート、アミトラズ、アメトリン、イナベンフィド、イミダクロプリド、インダノファン、エトキシスルフロン、エトベンザニド、オキサジアルギル、オキサジクロメホン、オキサミル、キザロホップエチル、クミルロン、クロチアニジ

ここでネガティブモードで対象とする農薬は、ダラポン及びホセチルである。

1 試 薬

(1) アスコルビン酸ナトリウム

(2) アセトニトリル

測定対象成分を含まないもの

(3) ぎ酸(0.1～0.2v/v%)

(4) 酢酸(0.15v/v%)

(5) アセフェート標準原液

アセフェート100mgをアセトニトリルに溶かして100mlとしたもの

この溶液1mlは、アセフェート1mgを含む。

この溶液は、冷凍保存する。

ン、クロマフェノジド、クロメプロップ、シアナジン、ジクロメジン、ジクロルプロップ、シノスルフロン、ジノテフラ
ン、ジフェノコナゾール、ジフルベンズロン、シプロコナゾ
ール、シプロジニル、シメコナゾール、シラフルオフエン、
チアクロプリド、チアジニル、チアメトキサム、チフルザミ
ド、テトラクロルビンホス（C VMP）、テトラコナゾール
、テブコナゾール、テブフェノジド、トリネキサバックエチ
ル、トリフルミゾール、ナプロアニリド、ニテンピラム、ピ
メトロジン、ピラゾスルフロンエチル、ピラゾリネート（ピ
ラゾレート）、（E）ーピリミノバックメチル、（Z）ーピリミ
ノバックメチル、ピリミホスメチル、フェントラザミド、フ
ラメトピル、フルアジナム、フルアジホップ、フルスルファ
ミド、プロパニル（D C P A）、ブロマシル、プロメトリン
、ベンゾビシクロン、ベンゾフェナップ、ベンダイオカルブ
、ペントキサゾン、ホキシム、ボスカリド、メトミノストロ
ビン、メトリブジン、モノクロトホス、リニュロンそれぞれ
100mgを別々のメスフラスコに採り、それぞれをアセトニト
リルに溶かして100mlとしたもの

この溶液 1 mlは、それぞれの農薬を 1 mg含む。

この溶液は、冷凍保存する。

(9) オキシシン銅（有機銅）標準原液

別添方法18の 1 (10)の例による。

(10) 2， 2ーD P A（ダラポン）及びホセチル標準原液

2， 2ーD P A（ダラポン）及びホセチルの100mgを別々
のメスフラスコに採り、それぞれを精製水に溶かして100ml
としたもの

この溶液 1 mlは、2， 2ーD P A（ダラポン）及びホセチ
ル 1 mgを含む。

この溶液は、冷蔵保存する。

(6) オキシシン銅標準原液

別添方法18の 1 (10)の例による。

(7) ダラポン標準原液

ダラポン100mgをメスフラスコに採り、精製水に溶かして
100mlとしたもの

この溶液 1 mlは、ダラポン 1 mgを含む。

この溶液は、冷蔵保存する。

(8) ホセチル標準原液

ホセチル100mgをメスフラスコに採り、精製水に溶かして
100mlとしたもの

(11) 農薬混合標準液

2, 2-DPA (ダラポン)、MCPA、アシベンゾラル Sメチル、アセタミプリド、アセフェート、アミトラズ、アメトリン、イナベンフィド、イミダクロプリド、インダノファン、エトキシスルフロンの、エトベンザニド、オキサジアルギル、オキサジクロメホン、オキサミル、オキシシン銅 (有機銅)、キザロホップエチル、クミルロン、クロチアニジン、クロマフェノジド、クロメプロップ、シアナジン、ジクロメジン、ジクロルプロップ、シノスルフロンの、ジノテフラン、ジフェノコナゾール、ジフルベンスロン、シプロコナゾール、シプロジニル、シメコナゾール、シラフルオフエン、チアクロプリド、チアジニル、チアメトキサム、チフルザミド、テトラクロルビンホス (CVMP)、テトラコナゾール、テブコナゾール、テブフェノジド、トリネキサバックエチル、トリフルミゾール、ナプロアニリド、ニテンピラム、ピメトロジン、ピラゾスルフロンのエチル、ピラゾリネート (ピラゾレート)、(E)-ピリミノバックメチル、(Z)-ピリミノバックメチル、ピリミホスメチル、フェントラザミド、フラメトピル、フルアジナム、フルアジホップ、フルスルファミド、プロパニル (DCPA)、ブロマシル、プロメトリン、ベンゾビシクロン、ベンゾフェナップ、ベンダイオカルブ、ペントキサゾン、ホキシム、ボスカリド、メトミノストロビン、メトリブジン、モノクロトホス及びリニュロンのそれぞれの標準原液0.1mlずつ、ホセチル標準原液 1mlをメスフラスコに採り、精製水を加えて100mlとしたもの

この溶液 1mlは、2, 2-DPA (ダラポン)、MCPA、アシベンゾラル Sメチル、アセタミプリド、アセフェート、アミトラズ、アメトリン、イナベンフィド、イミダクロプリド、インダノファン、エトキシスルフロンの、エトベンザニド、オキサジアルギル、オキサジクロメホン、オキサミル、

この溶液 1mlは、ホセチル 1mgを含む。

この溶液は、冷蔵保存する。

(9) 農薬混合標準液

アセフェート、オキシシン銅及びダラポンのそれぞれの標準原液0.1mlずつ、ホセチル標準原液 1mlをメスフラスコに採り、精製水を加えて100mlとしたもの

この溶液 1mlは、アセフェート、オキシシン銅及びダラポンをそれぞれ0.001mg、ホセチルを0.01mg含む。

オキシシン銅（有機銅）、キザロホップエチル、クミルロン、クロチアニジン、クロマフェノジド、クロメプロップ、シアナジン、ジクロメジン、ジクロルプロップ、シノスルフロシ、ジノテフラン、ジフェノコナゾール、ジフルベンズロン、シプロコナゾール、シプロジニル、シメコナゾール、シラフルオフェン、チアクロプリド、チアジニル、チアメトキサム、チフルザミド、テトラクロルビンホス（CVMP）、テトラコナゾール、テブコナゾール、テブフェノジド、トリネキサパックエチル、トリフルミゾール、ナプロアニリド、ニテンピラム、ピメトロジン、ピラゾスルフロシエチル、ピラゾリネート（ピラゾレート）、（E）ーピリミノバックメチル、（Z）ーピリミノバックメチル、ピリミホスメチル、フェントラザミド、フラメトピル、フルアジナム、フルアジホップ、フルスルファミド、プロパニル（DCPA）、ブロマシル、プロメトリン、ベンゾビシクロシ、ベンゾフェナップ、ベンダイオカルブ、ペントキサゾン、ホキシム、ボスカリド、メトミノストロビン、メトリブジン、モノクロトホス及びリニユロンをそれぞれ0.001mg、ホセチルを0.01mg含む。

この溶液は、使用の都度調製する。

2 器具及び装置

(1) (略)

(2) 液体クロマトグラフー質量分析計

ア (略)

イ 移動相

最適条件に調製したもの

ウ～エ (略)

オ 検出器

検査方法告示の別表第17の2の2(4)エの例による。

カ フラグメントを得るための電圧

検査方法告示の別表第17の2の2(4)オの例による。

3 (略)

4 試験操作

この溶液は、使用の都度調製する。

2 器具及び装置

(1) (略)

(2) 液体クロマトグラフー質量分析計

ア (略)

イ 移動相

別添方法18の2(2)イの例による。

ウ～エ (略)

オ 検出器

検査方法告示の別表第14の2(4)ウの例による。

カ フラグメントを得るための電圧

最適条件に設定できるもの

3 (略)

4 試験操作

(1) (略)

(2) 分 析

上記(1)で得られた試験溶液の一定量を液体クロマトグラフィー質量分析計に注入し、ポジティブモードは表 1 に示すそれぞれの農薬のモニターイオンのピーク高さ又はピーク面積を求め、下記 5 により作成した検量線から試験溶液中のそれぞれの農薬の濃度を求め、検水中のそれぞれの農薬の濃度を算定する。

また、ネガティブモードは表 2 に示すそれぞれの農薬のモニターイオンのピーク高さ又はピーク面積を求め、下記 5 により作成した検量線から試験溶液中のそれぞれの農薬の濃度を求め、検水中のそれぞれの農薬の濃度を算定する。

(1) (略)

(2) 分 析

上記(1)で得られた試験溶液の一定量を液体クロマトグラフィー質量分析計に注入し、ポジティブモードは表 1 に示すそれぞれの農薬のモニターイオンのピーク高さ又はピーク面積を求め、下記(3)で求めた空試験のピーク高さ又はピーク面積を差し引いた後、下記 5 により作成した検量線から試験溶液中のそれぞれの農薬の濃度を求め、検水中のそれぞれの農薬の濃度を算定する。

また、ネガティブモードは表 2 に示すそれぞれの農薬のモニターイオンのピーク高さ又はピーク面積を求め、下記(3)で求めた空試験のピーク高さ又はピーク面積を差し引いた後、下記 5 により作成した検量線から試験溶液中のそれぞれの農薬の濃度を求め、検水中のそれぞれの農薬の濃度を算定する。

(3) 空試験

精製水100mlを採り、以下上記(1)及び(2)と同様に操作してそれぞれの農薬のモニターイオンのピーク高さ又はピーク面積を求める。

表1 ポジティブモードのモニターイオンの例及び濃度範囲

農 薬 名	濃度範囲 (mg/L)	検査方法告示の別表第17の2の2(4)エ①に該当する検出器	検査方法告示の別表第17の2の2(4)エ②に該当する検出器	
		モニターイオン (m/z)	プリカーサイオン (m/z)	プロダクトイオン ※ (m/z)
<u>アシベンゾラル Sメチル</u>	<u>0.001～0.1</u>	—	<u>211</u>	<u>136、91</u>
<u>アセタミプリド</u>	<u>0.001～0.03</u>	—	<u>223</u>	<u>126、56</u>
<u>アセフェート</u>	<u>0.0008～0.08</u>	184	—	—
<u>アミトラズ</u>	<u>0.0003～0.006</u>	—	<u>294</u>	<u>163、122</u>
<u>アメトリン</u>	<u>0.001～0.1</u>	—	<u>228</u>	<u>186、68</u>
<u>イミダクロプリド</u>	<u>0.001～0.03</u>	—	<u>256</u>	<u>175、209</u>
<u>インダノファン</u>	<u>0.0003～0.009</u>	—	<u>341</u>	<u>175、187</u>
<u>エトキシスルフロン</u>	<u>0.001～0.1</u>	—	<u>399</u>	<u>261、218</u>

表1 ポジティブモードのモニターイオン及び濃度範囲

農 薬 名	濃度範囲 (mg/L)	モニターイオン (m/z)
<u>21</u> アセフェート	0.0008～0.08	184

エトベンザニド	0.001～0.1	—	340	59、179
オキサジアルギル	0.0001～0.01	—	358	341、223
オキサジクロメホン	0.0001～0.01	—	376	190、161
オキサミル	0.0003～0.009	—	237	72、90
オキシシン銅（有機銅）	0.0004～0.04	146	—	—
キザロホップエチル	0.0001～0.01	—	373	299、91
クミルロン	0.0003～0.03	—	303	185、119
クロチアニジン	0.001～0.03	—	250	169、132
クロマフェノジド	0.003～0.3	—	395	175、339
クロメプロップ	0.0001～0.01	—	324	120、149
シアナジン	0.00002～0.002	—	241	214、71
ジクロメジン	0.0003～0.01	—	255	80、159
シノスルフロソ	0.01～0.2	—	414	183、83
ジノテフラン	0.003～0.1	—	203	129、87
ジフェノコナゾール	0.0001～0.01	—	406	251、111
シプロコナゾール	0.0001～0.01	—	292	70、125
シプロジニル	0.0003～0.03	—	226	93、108
シメコナゾール	0.0001～0.01	—	294	70、73
シラフルオフェン	0.01～0.3	—	426	287、59
チアクロプリド	0.0003～0.03	—	253	126、90
チアメトキサム	0.0003～0.009	—	292	211、181

28	オキシシン銅	0.0004～0.04	146
----	--------	-------------	-----

<u>テトラクロルビン ホス (C V M P)</u>	<u>0.0001～0.01</u>	<u>—</u>	<u>367</u>	<u>127、206</u>
<u>テトラコナゾール</u>	<u>0.0001～0.01</u>	<u>—</u>	<u>372</u>	<u>159、70</u>
<u>テブコナゾール</u>	<u>0.0003～0.03</u>	<u>—</u>	<u>308</u>	<u>70、125</u>
<u>テブフェノジド</u>	<u>0.0003～0.03</u>	<u>—</u>	<u>353</u>	<u>133、297</u>
<u>トリネキサパツ クエチル</u>	<u>0.0001～0.01</u>	<u>—</u>	<u>253</u>	<u>69、207</u>
<u>トリフルミゾール</u>	<u>0.0003～0.03</u>	<u>—</u>	<u>346</u>	<u>278、73</u>
<u>ナプロアニリド</u>	<u>0.0001～0.01</u>	<u>—</u>	<u>292</u>	<u>171、120</u>
<u>ニテンピラム</u>	<u>0.01～0.3</u>	<u>—</u>	<u>271</u>	<u>126、56</u>
<u>ピメトロジン</u>	<u>0.0003～0.03</u>	<u>—</u>	<u>218</u>	<u>105、78</u>
<u>ピラズスルフロ ンエチル</u>	<u>0.001～0.1</u>	<u>—</u>	<u>415</u>	<u>182、83</u>
<u>ピラゾリネート (ピラゾレート)</u>	<u>0.0001～0.01</u>	<u>—</u>	<u>439</u>	<u>91、173</u>
<u>ピリミノバック メチル</u>	<u>0.0003～0.03</u>	<u>—</u>	<u>362</u>	<u>330、284</u>
<u>ピリミホスメチ ル</u>	<u>0.0003～0.03</u>	<u>—</u>	<u>306</u>	<u>108、164</u>
<u>フェントラザミ ド</u>	<u>0.0001～0.01</u>	<u>—</u>	<u>350</u>	<u>83、154</u>
<u>フラメトピル</u>	<u>0.0001～0.01</u>	<u>—</u>	<u>334</u>	<u>157、290</u>
<u>フルアジホップ</u>	<u>0.0003～0.03</u>	<u>—</u>	<u>328</u>	<u>282、91</u>
<u>ブロマシル</u>	<u>0.0003～0.03</u>	<u>—</u>	<u>261</u>	<u>205、188</u>
<u>プロメトリン</u>	<u>0.0003～0.03</u>	<u>—</u>	<u>242</u>	<u>158、200</u>
<u>ベンゾビシクロ ン</u>	<u>0.0003～0.03</u>	<u>—</u>	<u>447</u>	<u>257、229</u>

<u>ベンゾフェナッ プ</u>	<u>0.00002～0.002</u>	<u>＝</u>	<u>431</u>	<u>105、119</u>
<u>ベンダイオカル ブ</u>	<u>0.00002～0.0006</u>	<u>＝</u>	<u>224</u>	<u>167、109</u>
<u>ペントキサゾン</u>	<u>0.003～0.3</u>	<u>＝</u>	<u>354、371</u>	<u>286、354</u>
<u>ホキシム</u>	<u>0.0003～0.003</u>	<u>＝</u>	<u>299</u>	<u>77、129</u>
<u>ボスカリド</u>	<u>0.001～0.1</u>	<u>＝</u>	<u>343</u>	<u>307、140</u>
<u>メトミノストロ ビン</u>	<u>0.0003～0.03</u>	<u>＝</u>	<u>285</u>	<u>196、194</u>
<u>メトリブジン</u>	<u>0.0003～0.03</u>	<u>＝</u>	<u>215</u>	<u>49、187</u>
<u>モノクロトホス</u>	<u>0.00002～0.002</u>	<u>＝</u>	<u>224</u>	<u>193、127</u>
<u>リニュロン</u>	<u>0.0001～0.01</u>	<u>＝</u>	<u>249</u>	<u>160、182</u>

※プロダクトイオンをモニターイオンとする。

表2 ネガティブモードのモニターイオンの例及び濃度範囲

農 薬 名	濃度範囲 (mg /L)	検査方 法告示 の別表 第17の 2の2 (4)エ① に該当 する検 出器	検査方法告示の別 表第17の2の2 (4)エ②に該当す る検出器	
		モニ ター イオ ン (m/z)	プリカ ーサイ オン(m/z)	プロダク トイオン ※(m/z)
<u>2, 2-D P A</u> <u>(ダラボン)</u>	0.001～0.1	141	＝	＝

注) ここに示すモニターイオンは一例である。

表2 ネガティブモードのモニターイオン及び濃度範囲

農 薬 名	濃度範囲 (mg/L)	モニターイオン (m/z)
<u>64</u> ダラボン	0.001～0.1	141

<u>M C P A</u>	<u>0.0003～0.005</u>	<u>—</u>	<u>199</u>	<u>141、105</u>
<u>イナベンフィド</u>	<u>0.001～0.1</u>	<u>—</u>	<u>337</u>	<u>122、78</u>
<u>ジクロロプロッ プ</u>	<u>0.0003～0.03</u>	<u>—</u>	<u>233</u>	<u>161、125</u>
<u>ジフルベンズロ ン</u>	<u>0.003～0.03</u>	<u>—</u>	<u>309</u>	<u>156、289</u>
<u>チアジニル</u>	<u>0.001～0.1</u>	<u>—</u>	<u>266</u>	<u>71、238</u>
<u>チフルザミド</u>	<u>0.0003～0.03</u>	<u>—</u>	<u>527</u>	<u>125、166</u>
<u>フルアジナム</u>	<u>0.0003～0.03</u>	<u>—</u>	<u>463</u>	<u>416、398</u>
<u>フルスルファミ ド</u>	<u>0.00002～0.002</u>	<u>—</u>	<u>413</u>	<u>171、179</u>
<u>プロパニル（D C P A）</u>	<u>0.0003～0.03</u>	<u>—</u>	<u>216</u>	<u>160、35</u>
ホセチル	0.02～2	109	—	—

※プロダクトイオンをモニターイオンとする。

5 検量線の作成

農薬混合標準液を段階的にメスフラスコに採り、それぞれに精製水を加えて10mlとする。以下上記4(2)と同様に操作して、それぞれの農薬のモニターイオンのピーク高さ又はピーク面積を求め、それぞれの農薬の濃度との関係を求める。

別紙1 略

<u>92</u>	ホセチル	0.02 ～2	109

注) ここに示すモニターイオンは一例である。

5 検量線の作成

農薬混合標準液を段階的にメスフラスコに採り、それぞれに精製水を加えて10mlとする。以下上記4(2)と同様に操作して、それぞれの農薬のモニターイオンのピーク高さ又はピーク面積を求め、それぞれの農薬の濃度との関係を求める。

別紙1 略

別紙2 農薬類（水質管理目標設定項目15）の測定精度
（略）

農 薬 名	目標 値(mg /L)	検 査 方 法	定量下 限值(mg /L)	変動 係数
1, 3-ジクロ ロプロペン (D -D)	0.002	PT-GC-MS 法 HS-GC-MS 法	0.0001* 0.0001*	20% 20%
<u>2, 2-DPA</u> <u>(ダラボン)</u>	0.08	LC-MS法 (N)	0.001*	20%
2, 4-D (2 , 4-PA)	0.03	固相抽出-誘導体 化-GC-MS法 固相抽出-LC- MS法 (N)	0.00001 0.00005	20% 20%
EPN	0.004	固相抽出-GC- MS法	0.00005*	20%
<u>MCPA</u>	<u>0.005</u>	<u>LC-MS法 (N</u> <u>)</u>	<u>0.0003*</u>	<u>20%</u>
<u>アシベンゾラル</u> <u>Sメチル</u>	<u>0.1</u>	<u>LC-MS法 (P</u> <u>) : 参考</u>	<u>0.001</u>	<u>20%</u>
アシュラム	0.2	固相抽出-HPL C法 固相抽出-LC- MS法 (P) 固相抽出-LC- MS法 (N)	0.001 0.0001 0.0005	20% 20% 20%

別紙2 農薬類（水質管理目標設定項目15）の測定精度
（略）

番 号	農 薬 名	目標 値(mg /L)	検 査 方 法	定量下 限值(mg /L)	変動 係数
<u>4</u>	1, 3-ジクロ ロプロペン (D -D)	0.002	PT-GC-MS 法 HS-GC-MS 法	0.0001 0.0001	20% 20%
<u>64</u>	ダラボン	0.08	LC-MS法 (N)	0.001	20%
<u>19</u>	<u>2, 4-ジクロ</u> <u>ロフェノキシ酢</u> <u>酸 (2, 4-D</u> <u>)</u>	0.03	固相抽出-誘導体 化-GC-MS法 固相抽出-LC- MS法 (N)	0.00001 0.00005	20% 20%
<u>16</u>	EPN	0.004	固相抽出-GC- MS法	0.00005	20%
<u>36</u>	アシュラム	0.2	固相抽出-HPL C法 固相抽出-LC- MS法 (P) 固相抽出-LC- MS法 (N)	0.001 0.0001 0.0005	20% 20% 20%

アセタミプリド	0.2	固相抽出—G C— MS 法	0.002	20%
		LC—MS 法 (P)	0.001	20%
アセフェート	0.006	LC—MS 法 (P)	0.0008*	20%
アゾキシストロ ビン	0.5	固相抽出—LC— MS 法 (P)	0.00002	20%
アトラジン	0.01	固相抽出—G C— MS 法	0.00005	20%
アニロホス	0.003	固相抽出—G C— MS 法	0.00005*	20%
アミトラズ	0.006	LC—MS 法 (P) : 参考	0.0003*	20%
アメトリン	0.2	固相抽出—G C— MS 法	0.002	20%
		LC—MS 法 (P)	0.001	20%
アラクロール	0.03	固相抽出—G C— MS 法	0.00002	20%
イソキサチオン	0.008	固相抽出—G C— MS 法	0.00001	20%
イソフェンホス	0.001	固相抽出—G C— MS 法	0.00003*	20%
イソプロカルブ (M I P C)	0.01	固相抽出—G C— MS 法	0.00005	20%
イソプロチオラ ン (I P T)	0.3	固相抽出—G C— MS 法	0.00001	20%

21	アセフェート	0.08	LC—MS 法 (P)	0.0008	20%
90	アゾキシストロ ビン	0.5	固相抽出—LC— MS 法 (P)	0.00002	20%
63	アトラジン	0.01	固相抽出—G C— MS 法	0.00005	20%
62	アニロホス	0.003	固相抽出—G C— MS 法	0.00005	20%
47	アラクロール	0.01	固相抽出—G C— MS 法	0.00002	20%
5	イソキサチオン	0.008	固相抽出—G C— MS 法	0.00001	20%
22	イソフェンホス	0.001	固相抽出—G C— MS 法	0.00003	20%
54	イソプロカルブ (M I P C)	0.01	固相抽出—G C— MS 法	0.00005	20%
8	イソプロチオラ ン (I P T)	0.3	固相抽出—G C— MS 法	0.00001	20%

<u>イナベンフィド</u>	<u>0.3</u>	<u>LC—MS法（N）</u>	<u>0.001</u>	<u>20%</u>
イプロジオン	0.3	固相抽出—GC—MS法	0.00002	20%
		固相抽出—HPLC法	0.001	20%
		固相抽出—LC—MS法（P）	0.0001	20%
イプロベンホス（IBP）	<u>0.09</u>	固相抽出—GC—MS法	0.00005	20%
<u>イミダクロプリド</u>	<u>0.1</u>	<u>LC—MS法（P）</u>	<u>0.001</u>	<u>20%</u>
イミノクタジン	0.006	固相抽出—HPLC—ポストカラム法	<u>0.004*</u>	20%
		溶媒抽出—HPLC—ポストカラム法	<u>0.004*</u>	20%
<u>インダノファン</u>	<u>0.009</u>	<u>固相抽出—GC—MS法</u>	<u>0.00006</u>	<u>20%</u>
		<u>LC—MS法（P）</u>	<u>0.0003*</u>	<u>20%</u>
<u>ユニコナゾールP</u>	<u>0.04</u>	<u>固相抽出—GC—MS法</u>	<u>0.0002</u>	<u>20%</u>
エスプロカルブ	0.03	固相抽出—GC—MS法	0.0001	20%
エディフェンホス（エジフェンホス、EDDP）	0.006	固相抽出—GC—MS法	0.00005	20%

<u>26</u>	イプロジオン	0.3	固相抽出—GC—MS法 固相抽出—HPLC法 固相抽出—LC—MS法（P）	0.00002 0.001 0.0001	20% 20% 20%
<u>15</u>	イプロベンホス（IBP）	<u>0.008</u>	固相抽出—GC—MS法	0.00005	20%
<u>91</u>	イミノクタジン <u>酢酸塩</u>	0.006	固相抽出—HPLC—ポストカラム法 溶媒抽出—HPLC—ポストカラム法	0.005 0.005	20% 20%
<u>83</u>	エスプロカルブ	0.03	固相抽出—GC—MS法	0.0001	20%
<u>49</u>	エディフェンホス（エジフェンホス、EDDP）	0.006	固相抽出—GC—MS法	0.00005	20%

<u>エトキシスルフロ</u> <u>ン</u>	<u>0.1</u>	<u>LC—MS法（P</u> <u>）：参考</u>	<u>0.001</u>	<u>20%</u>
エトフェンプロ ックス	0.08	固相抽出—GC— MS法	0.00005	20%
<u>エトベンザニド</u>	<u>0.1</u>	<u>固相抽出—GC—</u> <u>MS法</u> <u>LC—MS法（P</u> <u>）</u>	<u>0.0006</u> <u>0.001</u>	<u>20%</u> <u>20%</u>
エトリジアゾー ル（エクロメゾ ール）	0.004	固相抽出—GC— MS法	0.00001	20%
エンドスルファ ン（ベンゾエピ ン）	0.01	固相抽出—GC— MS法	0.00005	20%
<u>オキサジアルギ</u> <u>ル</u>	<u>0.02</u>	<u>LC—MS法（P</u> <u>）</u>	<u>0.0001</u>	<u>20%</u>
<u>オキサジクロメ</u> <u>ホン</u>	<u>二</u>	<u>LC—MS法（P</u> <u>）</u>	<u>0.0001</u>	<u>20%</u>
<u>オキサミル</u>	<u>0.05</u>	<u>LC—MS法（P</u> <u>）：参考</u>	<u>0.0003</u>	<u>20%</u>
<u>オキシシン銅（有</u> <u>機銅）</u>	0.04	固相抽出—LC— MS法（P） LC—MS法（P ）	0.00005 0.0004	20% 20%
<u>オリサストロビ</u> <u>ン</u>	<u>二</u>	<u>固相抽出—GC—</u> <u>MS法</u>	<u>0.0006</u>	<u>20%</u>
<u>カズサホス</u>	<u>二</u>	<u>固相抽出—GC—</u> <u>MS法</u>	<u>0.000006</u>	<u>20%</u>
カフェンストロ ール	0.008	固相抽出—GC— MS法	0.00001	20%

<u>70</u>	エトフェンプロ ックス	0.08	固相抽出—GC— MS法	0.00005	20%
<u>27</u>	エトリジアゾー ル（エクロメゾ ール）	0.004	固相抽出—GC— MS法	0.00001	20%
<u>69</u>	エンドスルファ ン（ベンゾエピ ン）	0.01	固相抽出—GC— MS法	0.00005	20%
<u>28</u>	オキシシン銅	0.04	固相抽出—LC— MS法（P） LC—MS法（P ）	0.00005 0.0004	20% 20%
<u>10</u> <u>1</u>	カフェンストロ ール	0.008	固相抽出—GC— MS法	0.00001	20%

カルバリル (NAC)	0.05	固相抽出—HPLC法 HPLC—ポストカラム法 固相抽出—LC—MS法 (P)	0.0005 0.0001 0.00002	20% 20% 20%
カルプロパミド	0.04	固相抽出—LC—MS法 (P) 固相抽出—LC—MS法 (N)	0.00002 0.00005	20% 20%
カルボフラン	0.005	HPLC—ポストカラム法 固相抽出—LC—MS法 (P)	0.00005 0.000005	20% 20%
<u>キザロホップエチル</u>	<u>0.02</u>	<u>LC—MS法 (P)</u>	<u>0.0001</u>	<u>20%</u>
<u>キノクラミン (ACN)</u>	<u>0.005</u>	<u>固相抽出—GC—MS法</u>	<u>0.00002</u>	<u>20%</u>
キャプタン	0.3	固相抽出—GC—MS法	0.0001	20%
<u>クミルロン</u>	<u>0.03</u>	<u>固相抽出—GC—MS法</u> <u>LC—MS法 (P)</u>	<u>0.0002</u> <u>0.0003</u>	<u>20%</u> <u>20%</u>
グリホサート	2	誘導体化—HPLC法 HPLC—ポストカラム法	0.0005 0.002	20% 20%
<u>クロチアニジン</u>	<u>0.2</u>	<u>LC—MS法 (P)</u>	<u>0.001</u>	<u>20%</u>

<u>48</u>	カルバリル (NAC)	0.05	固相抽出—HPLC法 HPLC—ポストカラム法 固相抽出—LC—MS法 (P)	0.0005 0.0001 0.00002	20% 20% 20%
<u>58</u>	カルプロパミド	0.04	固相抽出—LC—MS法 (P) 固相抽出—LC—MS法 (N)	0.00002 0.00005	20% 20%
<u>18</u>	カルボフラン (<u>カルボスルファ ン代謝物</u>)	0.005	HPLC—ポストカラム法 固相抽出—LC—MS法 (P)	0.00005 0.000005	20% 20%
<u>29</u>	キャプタン	0.3	固相抽出—GC—MS法	0.0001	20%
<u>72</u>	グリホサート	2	誘導体化—HPLC法 HPLC—ポストカラム法	0.0005 0.002	20% 20%

<u>クロマフェノジド</u>	<u>0.7</u>	<u>LC—MS法（P）</u>	<u>0.003</u>	<u>20%</u>
<u>クロメプロップ</u>	<u>0.02</u>	<u>LC—MS法（P）</u>	<u>0.0001</u>	<u>20%</u>
<u>クロルタールジメチル（TC T P）</u>	<u>二</u>	<u>固相抽出—GC—MS法</u>	<u>0.000006</u>	<u>20%</u>
クロルニトロフェン（CNP）	0.0001	固相抽出—GC—MS法	0.0001*	20%
クロルピリホス	0.003	固相抽出—GC—MS法	0.00005*	20%
<u>クロルピリホスメチル</u>	<u>0.03</u>	<u>固相抽出—GC—MS法</u>	<u>0.0002</u>	<u>20%</u>
クロロタロニル（TPN）	0.05	固相抽出—GC—MS法	0.00001	20%
クロロネブ	0.05	固相抽出—GC—MS法	0.00002	20%
<u>シアナジン</u>	<u>0.004</u>	<u>固相抽出—GC—MS法</u> <u>LC—MS法（P）</u>	<u>0.00002</u> <u>0.00002</u>	<u>20%</u> <u>20%</u>
<u>シアノホス（C YAP）</u>	<u>0.003</u>	<u>固相抽出—GC—MS法</u>	<u>0.00002</u>	<u>20%</u>
ジウロン（DC MU）	0.02	固相抽出—LC—MS法（P） 固相抽出—LC—MS法（N）	0.0001 0.0001	20% 20%
<u>ジクロフェンチオン（ECP）</u>	<u>0.006</u>	<u>固相抽出—GC—MS法</u>	<u>0.00006</u>	<u>20%</u>
ジクロベニル（DBN）	0.01	固相抽出—GC—MS法	0.00001	20%

<u>13</u>	クロルニトロフェン（CNP）	0.0001	固相抽出—GC—MS法	0.0001	20%
<u>23</u>	クロルピリホス	0.003	固相抽出—GC—MS法	0.00005	20%
<u>9</u>	クロロタロニル（TPN）	0.05	固相抽出—GC—MS法	0.00001	20%
<u>30</u>	クロロネブ	0.05	固相抽出—GC—MS法	0.00002	20%
<u>68</u>	ジウロン（DC MU）	0.02	固相抽出—LC—MS法（P） 固相抽出—LC—MS法（N）	0.0001 0.0001	20% 20%
<u>65</u>	ジクロベニル（DBN）	0.01	固相抽出—GC—MS法	0.00001	20%

<u>ジクロメジン</u>	<u>0.05</u>	<u>LC—MS法（P）</u>	<u>0.0003</u>	<u>20%</u>
<u>ジクロルプロッ プ</u>	<u>0.06</u>	<u>LC—MS法（N）</u>	<u>0.0003</u>	<u>20%</u>
ジクロルボス（ DDVP）	0.008	固相抽出—GC— MS法	0.00005	20%
ジクワット	0.005	固相抽出—HPL C法	0.001*	20%
<u>ジスルホトン（ エチルチオメト ン）</u>	0.004	固相抽出—GC— MS法	0.00004	20%
ジチオピル	0.009	固相抽出—GC— MS法	0.00001	20%
シデュロン	0.3	固相抽出—HPL C法	0.002	20%
		固相抽出—LC— MS法（P）	0.00002	20%
		固相抽出—LC— MS法（N）	0.00002	20%
<u>シノスルフロン</u>	<u>0.2</u>	<u>LC—MS法（P）</u> <u>）：参考</u>	<u>0.01*</u>	<u>20%</u>
<u>ジノテフラン</u>	<u>0.6</u>	<u>LC—MS法（P）</u> <u>）</u>	<u>0.003</u>	<u>20%</u>
<u>シハロホップブ チル</u>	<u>0.006</u>	<u>固相抽出—GC— MS法</u>	<u>0.00006</u>	<u>20%</u>
<u>ジフェノコナゾ ール</u>	<u>0.02</u>	<u>固相抽出—GC— MS法</u>	<u>0.0002</u>	<u>20%</u>
		<u>LC—MS法（P）</u> <u>）</u>	<u>0.0001</u>	<u>20%</u>

<u>11</u>	ジクロルボス（ DDVP）	0.008	固相抽出—GC— MS法	0.00005	20%
<u>67</u>	ジクワット	0.005	固相抽出—HPL C法	0.001	20%
<u>81</u>	エチルチオメト ン	0.004	固相抽出—GC— MS法	0.00004	20%
<u>37</u>	ジチオピル	0.009	固相抽出—GC— MS法	0.00001	20%
<u>98</u>	シデュロン	0.3	固相抽出—HPL C法	0.002	20%
			固相抽出—LC— MS法（P）	0.00002	20%
			固相抽出—LC— MS法（N）	0.00002	20%

<u>ジフルベンズロ ン</u>	<u>0.03</u>	<u>LC—MS法（N ）</u>	<u>0.003*</u>	<u>20%</u>
<u>シプロコナゾー ル</u>	<u>0.02</u>	<u>固相抽出—GC— MS法</u> <u>LC—MS法（P ）</u>	<u>0.0002</u> <u>0.0001</u>	<u>20%</u> <u>20%</u>
<u>シプロジニル</u>	<u>0.07</u>	<u>固相抽出—GC— MS法</u> <u>LC—MS法（P ）</u>	<u>0.0006</u> <u>0.0003</u>	<u>20%</u> <u>20%</u>
シマジン（CA T）	0.003	固相抽出—GC— MS法	0.00001	20%
<u>シメコナゾール</u>	<u>0.02</u>	<u>固相抽出—GC— MS法</u> <u>LC—MS法（P ）</u>	<u>0.0002</u> <u>0.0001</u>	<u>20%</u> <u>20%</u>
ジメタメトリン	0.02	固相抽出—GC— MS法	0.00001	20%
<u>ジメチルビンホ ス</u>	<u>0.01</u>	<u>固相抽出—GC— MS法</u>	<u>0.00006</u>	<u>20%</u>
ジメトエート	0.05	固相抽出—GC— MS法	0.00005	20%
シメトリン	0.03	固相抽出—GC— MS法	0.00002	20%
ジメピペレート	0.003	固相抽出—GC— MS法	0.00002	20%
<u>シラフルオフェ ン</u>	<u>0.3</u>	<u>LC—MS法（P ）：参考</u>	<u>0.01*</u>	<u>20%</u>
<u>シンメチリン</u>	<u>0.1</u>	<u>固相抽出—GC— MS法</u>	<u>0.0006</u>	<u>20%</u>

<u>2</u>	シマジン（CA T）	0.003	固相抽出—GC— MS法	0.00001	20%
<u>89</u>	ジメタメトリン	0.02	固相抽出—GC— MS法	0.00001	20%
<u>66</u>	ジメトエート	0.05	固相抽出—GC— MS法	0.00005	20%
<u>77</u>	シメトリン	0.03	固相抽出—GC— MS法	0.00002	20%
<u>78</u>	ジメピペレート	0.003	固相抽出—GC— MS法	0.00002	20%

ダイアジノン	0.005	固相抽出—G C— MS 法	0.00002	20%
ダイムロン	0.8	固相抽出—L C— MS 法 (P)	0.00005	20%
		固相抽出—L C— MS 法 (N)	0.00005	20%
チアクロプリド	二	固相抽出—G C— MS 法	0.0002	20%
		L C—MS 法 (P))	0.0003	20%
チアジニル	二	L C—MS 法 (N))	0.001	20%
チアメトキサム	0.05	固相抽出—G C— MS 法	0.0002	20%
		L C—MS 法 (P))	0.0003	20%
チウラム	0.02	固相抽出—L C— MS 法 (P)	0.0002	20%
チオジカルブ	0.08	固相抽出—L C— MS 法 (P)	0.00005	20%
チオファネート メチル	0.3	固相抽出—H P L C 法	0.002	20%
		固相抽出—L C— MS 法 (P)	0.00005	20%
チオベンカルブ	0.02	固相抽出—G C— MS 法	0.00002	20%
チフルザミド	0.04	固相抽出—G C— MS 法	0.0002	20%
		L C—MS 法 (N))	0.0003	20%

<u>6</u>	ダイアジノン	0.005	固相抽出—G C— MS 法	0.00002	20%
<u>84</u>	ダイムロン	0.8	固相抽出—L C— MS 法 (P)	0.00005	20%
			固相抽出—L C— MS 法 (N)	0.00005	20%
<u>1</u>	チウラム	0.02	固相抽出—L C— MS 法 (P)	0.0002	20%
<u>96</u>	チオジカルブ	0.08	固相抽出—L C— MS 法 (P)	0.00005	20%
<u>55</u>	チオファネート メチル	0.3	固相抽出—H P L C 法	0.002	20%
			固相抽出—L C— MS 法 (P)	0.00005	20%
<u>3</u>	チオベンカルブ	0.02	固相抽出—G C— MS 法	0.00002	20%

テトラクロルビ ンホス (CVM P)	0.01	固相抽出—G C— MS 法 LC—MS 法 (P)	0.00006 0.0001	20% 20%
テトラコナゾー ル	二	固相抽出—G C— MS 法 LC—MS 法 (P)	0.00006 0.0001	20% 20%
テニルクロール	0.2	固相抽出—G C— MS 法	0.00002	20%
テブコナゾール	0.07	固相抽出—G C— MS 法 LC—MS 法 (P)	0.0006 0.0003	20% 20%
テブフェノジド	0.04	LC—MS 法 (P)	0.0003	20%
テルブカルブ (MB PMC)	0.02	固相抽出—G C— MS 法	0.00001	20%
トリクロピル	0.006	固相抽出—誘導体 化—G C—MS 法 固相抽出—L C— MS 法 (N)	0.00001 0.00002	20% 20%
トリクロルホン (DE P)	0.03	固相抽出—G C— MS 法	0.0002	20%
トリシクラゾー ル	0.08	固相抽出—L C— MS 法 (P)	0.000002	20%
トリネキサパッ クエチル	0.01	LC—MS 法 (P)	0.0001	20%

56	テニルクロール	0.2	固相抽出—G C— MS 法	0.00002	20%
38	テルブカルブ (MB PMC)	0.02	固相抽出—G C— MS 法	0.00001	20%
20	トリクロピル	0.006	固相抽出—誘導体 化—G C—MS 法 固相抽出—L C— MS 法 (N)	0.00001 0.00002	20% 20%
24	トリクロルホン (DE P)	0.03	固相抽出—G C— MS 法	0.0002	20%
87	トリシクラゾー ル	0.08	固相抽出—L C— MS 法 (P)	0.000002	20%

<u>トリフルミゾール</u>	二	固相抽出—G C— MS 法：参考 LC—MS 法（P） ）：参考	0.0002 0.0003	20% 20%
トリフルラリン	0.06	固相抽出—G C— MS 法	0.00001	20%
トルクロホスメ チル	0.2	固相抽出—G C— MS 法	0.00001	20%
<u>ナプロアニリド</u>	<u>0.02</u>	<u>LC—MS 法（P）</u> <u>）</u>	<u>0.0001</u>	<u>20%</u>
ナプロパミド	0.03	固相抽出—G C— MS 法	0.00001	20%
<u>ニテンピラム</u>	<u>1.3</u>	<u>LC—MS 法（P）</u> <u>）</u>	<u>0.01</u>	<u>20%</u>
<u>パクロブトラゾール</u>	<u>0.05</u>	固相抽出—G C— MS 法	<u>0.0002</u>	<u>20%</u>
ハロスルフロ ンメチル	0.3	固相抽出—LC— MS 法（P） 固相抽出—LC— MS 法（N）	0.00005 0.00005	20% 20%
ビフェノックス	0.2	固相抽出—G C— MS 法	0.0001	20%
ピペロホス	0.000 9	固相抽出—G C— MS 法	0.00005*	20%
<u>ピメトロジン</u>	<u>0.03</u>	<u>LC—MS 法（P）</u> <u>）</u>	<u>0.0003</u>	<u>20%</u>
<u>ピラクロホス</u>	二	固相抽出—G C— MS 法	<u>0.00002</u>	<u>20%</u>

<u>10</u> <u>0</u>	トリフルラリン	0.06	固相抽出—G C— MS 法	0.00001	20%
<u>31</u>	トルクロホス メチル	0.2	固相抽出—G C— MS 法	0.00001	20%
39	ナプロパミド	0.03	固相抽出—G C— MS 法	0.00001	20%
<u>94</u>	ハロスルフロ ンメチル	0.3	固相抽出—LC— MS 法（P） 固相抽出—LC— MS 法（N）	0.00005 0.00005	20% 20%
<u>85</u>	ビフェノックス	0.2	固相抽出—G C— MS 法	0.0001	20%
<u>88</u>	ピペロホス	0.000 9	固相抽出—G C— MS 法	0.00005	20%

ピラゾキシフェ ン	0.004	固相抽出—G C— MS 法	0.00002	20%
ピラゾスルフロ ンエチル	0.1	LC—MS 法（P ）：参考	0.001	20%
ピラゾリネート （ピラゾレート ）	0.02	LC—MS 法（P ）：参考	0.0001	20%
ピリダフェンチ オン	0.002	固相抽出—G C— MS 法	0.00005*	20%
ピリブチカルブ	0.02	固相抽出—G C— MS 法	0.00002	20%
ピリプロキシフ ェン	0.3	固相抽出—G C— MS 法	0.00001	20%
ピリミノバック メチル	0.05	固相抽出—G C— MS 法 LC—MS 法（P ）	0.0002 0.0003	20% 20%
ピリミホスメチ ル	0.06	固相抽出—G C— MS 法 LC—MS 法（P ）	0.0006 0.0003	20% 20%
ピロキロン	0.04	固相抽出—G C— MS 法	0.00001	20%
フィプロニル	0.000 5	固相抽出—L C— MS 法（N）	0.000005	20%
フェニトロチオ ン（ME P）	0.003	固相抽出—G C— MS 法	0.00001	20%
フェノブカルブ （B P M C）	0.03	固相抽出—G C— MS 法	0.00001	20%

25	ピリダフェンチ オン	0.002	固相抽出—G C— MS 法	0.00005	20%
40	ピリブチカルブ	0.02	固相抽出—G C— MS 法	0.00002	20%
99	ピリプロキシフ ェン	0.3	固相抽出—G C— MS 法	0.00001	20%
50	ピロキロン	0.04	固相抽出—G C— MS 法	0.00001	20%
10 2	フィプロニル	0.000 5	固相抽出—L C— MS 法（N）	0.000005	20%
7	フェニトロチオ ン（ME P）	0.003	固相抽出—G C— MS 法	0.00001	20%
12	フェノブカルブ （B P M C）	0.03	固相抽出—G C— MS 法	0.00001	20%

フェンチオン (MP P)	0.006	固相抽出—G C—MS 法 固相抽出—L C—MS 法 (P)	0.00001 0.00002	20% 20%
フェントエート (P A P)	0.007	固相抽出—G C—MS 法	0.00004	20%
フェントラザミド	二	L C—MS 法 (P) L	0.0001	20%
フサライド	0.1	固相抽出—G C—MS 法	0.00001	20%
ブタクロール	0.03	固相抽出—G C—MS 法	0.0002	20%
ブタミホス	0.02	固相抽出—G C—MS 法	0.0001	20%
ブプロフェジン	0.02	固相抽出—G C—MS 法	0.00001	20%
フラザスルフロ ン	0.03	固相抽出—L C—MS 法 (P) 固相抽出—L C—MS 法 (N)	0.000002 0.000002	20% 20%
フラメトピル	0.02	固相抽出—G C—MS 法 L C—MS 法 (P) L	0.0002 0.0001	20% 20%
フルアジナム	0.03	L C—MS 法 (N) L	0.0003	20%
フルアジホップ	0.03	L C—MS 法 (P) L	0.0003	20%
フルスルファミ ド	二	L C—MS 法 (N) L	0.00002	20%

71	フェンチオン (MP P)	0.001	固相抽出—G C—MS 法 固相抽出—L C—MS 法 (P)	0.00001 0.00002	20% 20%
79	フェントエート (P A P)	0.004	固相抽出—G C—MS 法	0.00004	20%
51	フサライド	0.1	固相抽出—G C—MS 法	0.00001	20%
41	ブタミホス	0.02	固相抽出—G C—MS 法	0.0001	20%
80	ブプロフェジン	0.02	固相抽出—G C—MS 法	0.00001	20%
95	フラザスルフロ ン	0.03	固相抽出—L C—MS 法 (P) 固相抽出—L C—MS 法 (N)	0.000002 0.000002	20% 20%

フルトラニル	0.2	固相抽出—G C— MS 法	0.00001	20%
プレチラクロール	0.05	固相抽出—G C— MS 法	0.00001	20%
プロシミドン	0.09	固相抽出—G C— MS 法	0.0001	20%
プロパニル (D C P A)	0.04	固相抽出—G C— MS 法 LC—MS 法 (N)	0.0002 0.0003	20% 20%
プロパホス	0.001	固相抽出—G C— MS 法	0.00006*	20%
プロピコナゾール	0.05	固相抽出—G C— MS 法	0.0002	20%
プロピザミド	0.05	固相抽出—G C— MS 法	0.00001	20%
プロベナゾール	0.05	固相抽出—L C— MS 法 (P)	0.0001	20%
プロポキスル (P H C)	0.2	固相抽出—G C— MS 法	0.002	20%
ブロマシル	二	固相抽出—G C— MS 法 LC—MS 法 (P)	0.0002 0.0003	20% 20%
プロメトリン	0.06	固相抽出—G C— MS 法 LC—MS 法 (P)	0.0006 0.0003	20% 20%
ブロモブチド	0.1	固相抽出—G C— MS 法	0.0001	20%

32	フルトラニル	0.2	固相抽出—G C— MS 法	0.00001	20%
53	プレチラクロール	0.05	固相抽出—G C— MS 法	0.00001	20%
61	プロシミドン	0.09	固相抽出—G C— MS 法	0.0001	20%
97	プロピコナゾール	0.05	固相抽出—G C— MS 法	0.0002	20%
10	プロピザミド	0.05	固相抽出—G C— MS 法	0.00001	20%
82	プロベナゾール	0.05	固相抽出—L C— MS 法 (P)	0.0001	20%
59	ブロモブチド	0.1	固相抽出—G C— MS 法	0.0001	20%

ベノミル	0.02	固相抽出—L C— MS 法（P）	0.00002	20%
ペンシクロン	0.1	固相抽出—G C— MS 法	0.0001	20%
ベンスリド（S A P）	0.1	固相抽出—L C— MS 法（P） 固相抽出—L C— MS 法（N）	0.00001 0.00001	20% 20%
ベンスルフロン メチル	<u>0.5</u>	固相抽出—L C— MS 法（P） 固相抽出—L C— MS 法（N）	0.00001 0.00001	20% 20%
<u>ベンゾビシクロ ン</u>	<u>二</u>	<u>L C—MS 法（P ）：参考</u>	<u>0.0003</u>	<u>20%</u>
<u>ベンゾフェナッ プ</u>	<u>0.004</u>	<u>L C—MS 法（P ）</u>	<u>0.00002</u>	<u>20%</u>
<u>ベンダイオカル ブ</u>	<u>0.009</u>	<u>L C—MS 法（P ）：参考</u>	<u>0.00002</u>	<u>20%</u>
ベントゾン	0.2	固相抽出—誘導体 化—G C—MS 法 固相抽出—L C— MS 法（P） 固相抽出—L C— MS 法（N）	0.00001 0.00005 0.000002	20% 20% 20%
ペンディメタリ ン	<u>0.3</u>	固相抽出—G C— MS 法	0.00001	20%
<u>ペントキサゾン</u>	<u>0.6</u>	<u>L C—MS 法（P ）：参考</u>	<u>0.003</u>	<u>20%</u>
ベンフラカルブ	0.04	固相抽出—L C— MS 法（P）	0.000004	20%

<u>75</u>	ベノミル	0.02	固相抽出—L C— MS 法（P）	0.00002	20%
<u>33</u>	ペンシクロン	0.1	固相抽出—G C— MS 法	0.0001	20%
<u>42</u>	ベンスリド（S A P）	0.1	固相抽出—L C— MS 法（P） 固相抽出—L C— MS 法（N）	0.00001 0.00001	20% 20%
<u>86</u>	ベンスルフロン メチル	<u>0.4</u>	固相抽出—L C— MS 法（P） 固相抽出—L C— MS 法（N）	0.00001 0.00001	20% 20%
<u>17</u>	ベントゾン	0.2	固相抽出—誘導体 化—G C—MS 法 固相抽出—L C— MS 法（P） 固相抽出—L C— MS 法（N）	0.00001 0.00005 0.000002	20% 20% 20%
44	ペンディメタリ ン	<u>0.1</u>	固相抽出—G C— MS 法	0.00001	20%
<u>76</u>	ベンフラカルブ	0.04	固相抽出—L C— MS 法（P）	0.000004	20%

ベンフルラリン (ベスロジン)	0.01	固相抽出—G C— MS 法	0.00001	20%
ベンフレセート	0.07	固相抽出—G C— MS 法	0.0006	20%
ホキシム	0.003	LC—MS 法 (P)	0.0003*	20%
ホサロン	二	固相抽出—G C— MS 法	0.0006	20%
ボスカリド	0.1	固相抽出—G C— MS 法 LC—MS 法 (P)	0.0006 0.001	20% 20%
ホスチアゼート	0.003	固相抽出—G C— MS 法	0.00002	20%
ホセチル	2	LC—MS 法 (N)	0.02	20%
ポリカーバメー ト	0.03	誘導体化—H P L C 法	0.002*	20%
マラチオン (マ ラソン)	0.05	固相抽出—G C— MS 法	0.00005	20%
メコプロップ (M C P P)	0.005	固相抽出—誘導体 化—G C—MS 法 固相抽出—L C— MS 法 (N)	0.00005 0.00002	20% 20%
メソミル	0.03	H P L C—ポスト カラム法 固相抽出—L C— MS 法 (P)	0.0001 0.00002	20% 20%

43	ベンフルラリン (ベスロジン)	0.08	固相抽出—G C— MS 法	0.00001	20%
92	ホセチル	2	LC—MS 法 (N)	0.02	20%
93	ポリカーバメー ト	0.03	誘導体化—H P L C 法	0.002	20%
73	マラソン (マラ チオン)	0.05	固相抽出—G C— MS 法	0.00005	20%
45	メコプロップ (M C P P)	0.005	固相抽出—誘導体 化—G C—MS 法 固相抽出—L C— MS 法 (N)	0.00005 0.00002	20% 20%
74	メソミル	0.03	H P L C—ポスト カラム法 固相抽出—L C— MS 法 (P)	0.0001 0.00002	20% 20%

メタラキシル	0.06	固相抽出—G C— MS 法	0.00005	20%
メチダチオン（ DMTP）	0.004	固相抽出—G C— MS 法	0.00001	20%
メチルダイムロ ン	0.03	固相抽出—G C— MS 法	0.00005	20%
メトミノストロ ビン	0.04	固相抽出—G C— MS 法 LC—MS 法（P ）	0.0002 0.0003	20% 20%
メトラクロール	0.2	固相抽出—G C— MS 法	0.002	20%
メトリブジン	0.03	固相抽出—G C— MS 法 LC—MS 法（P ）	0.0002 0.0003	20% 20%
メフェナセット	0.02	固相抽出—G C— MS 法	0.00001	20%
メプロニル	0.1	固相抽出—G C— MS 法	0.00001	20%
モノクロトホス	0.002	LC—MS 法（P ）	0.00002	20%
モリネート	0.005	固相抽出—G C— MS 法	0.00001	20%
リニュロン	0.02	LC—MS 法（P ）	0.0001	20%
（削る）	（削 る）	（削る）	（削る ）	（ 削 る ）

34	メタラキシル	0.06	固相抽出—G C— MS 法	0.00005	20%
57	メチダチオン（ DMTP）	0.004	固相抽出—G C— MS 法	0.00001	20%
46	メチルダイムロ ン	0.03	固相抽出—G C— MS 法	0.00005	20%
52	メフェナセット	0.02	固相抽出—G C— MS 法	0.00001	20%
35	メプロニル	0.1	固相抽出—G C— MS 法	0.00001	20%
60	モリネート	0.005	固相抽出—G C— MS 法	0.00001	20%
14	CNP—アミノ 体	二	固相抽出—G C— MS 法	0.0001	20%

（注1）検査方法の欄中、Pはポジティブモード、Nはネガティブモードのことである。また、「参考」を付した検査方法は、検査実施機関において必要な真度、精度又は定量下限を確保できない可能性が高いものである。

（注2）定量下限値の欄中、*は目標値の100分の1を上回るものである。

別紙3 （略）

別添5 （略）

注）検査方法の欄中、Pはポジティブモード、Nはネガティブモードのことである。

別紙3 （略）

別添5 （略）